

2027
工学研究科
薬学研究科
保健医療学研究科

学生募集要項 [大学院]

[目次]

アドミッション・ポリシー	1
入学試験日程	5
工学研究科・保健医療学研究科	
修士課程 推薦入試	6
修士課程 一般入試 [前期]・[後期]	8
修士課程 社会人入試 [前期]・[後期]	10
薬学研究科	
博士課程 一般入試 [前期]・[後期]	12
博士課程 社会人入試 [前期]・[後期]	14
工学研究科・保健医療学研究科	
博士後期課程 一般入試	16
博士後期課程 社会人入試	18
共通	
入学金及び授業料・その他の経費	20
大学院奨学金について	22
大学院修士課程段階における「授業料後払い」制度について	22
入学金免除について	23
教育訓練給付制度（一般教育訓練）について	23
出願資格の事前審査について	25
出願上の留意事項	25
個人情報の取り扱いについて	25
志願票等の記入要領	26
各専攻の概要	31
長期履修学生制度（概要）	58
北海道科学大学大学院長期履修に関する取扱要領	59

心身に障がいをもつ入学志願者の事前相談について

心身に障がいをもつ志願者は、出願開始の1ヶ月前までに必ず本学入試広報課に電話（0120-248-059：受付時間本学休業日を除く平日の月～金曜日9：00～17：00）で相談してください。

そのうえで、事前相談書を本学HP（受験生サイト）よりダウンロードし、必要事項を記入の上、郵送等の方法で提出してください。

本学が必要と判断した場合は志願者本人、出身校関係者等との面談を行います。

なお事前相談書及び事前面談の内容については、入学試験の可否には一切関係ありません。

[必要事項]

1. 志願者本人の氏名、性別、生年月日、住所、電話番号
2. 出身校名、卒業（見込）年月
3. 出願予定の試験区分
4. 志望専攻名
5. 障がいの種類・程度（医師の診断書又は障害者手帳の写しを添付してください）
6. 受験及び修学上希望する支援内容
7. これまで受けてきた支援内容（主として授業関係）
8. その他参考となる事項

[配慮内容の例]

- ・ 座席を前方に指定
- ・ 座席を入口近くに指定
- ・ 文書を用いた説明 など

大学院入学試験問題の過去問題の開示について

大学院入学試験問題の過去問題を本学HPで開示します。

※対象の年度に入学試験の実施がなかった専攻・科目については、試験問題の開示はありませんので、ご了承ください。

工学研究科

GRADUATE SCHOOL OF ENGINEERING

修士課程

※記号(◎, ○, △)は重要度の順序を表しています。

機械工学専攻

①基本方針

機械工学専攻修士課程では、熱流体工学、固体力学、材料・加工、制御工学の分野における高度で深い機械工学の学識を身につけ、さらに自らの得意領域における研究テーマに創造的なアプローチで取り組むことで、実社会で要求される機械工学関連の諸問題を解決できる能力を有する高度専門技術者、

また知識基盤社会をリードする高度で知的な素養と社会性を備えた技術者、及び研究機関や大学等における研究者を養成します。
そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

②求める人材像と学力の3要素

	知識技能	思考力判断力表現力	主体性多様性協働性
自ら形成した得意分野を持ち、新たな課題を発見し解決して行うとする研究意欲のある人	△	◎	○
社会の新たな要求に対応できる知識・能力を身につけたいという強い意欲を持つ社会人	○	△	◎
専門知識と基礎的な研究能力を生かして新しい研究分野を先導する意欲のある人	◎	○	△
専門分野の知識に基づいて自分の考えを的確に表現し、他者と協働できる人	○	△	◎

③学力の3要素と求める学習成果

知識・技能	学力試験	成績証明書	推薦書	業務経歴書	口述試験
思考力・判断力・表現力	学力試験	小論文	面接	成績証明書	研究計画書 口述試験
主体性・多様性・協働性	小論文	面接	推薦書	研究計画書	口述試験

④求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	小論文	面接	成績証明書	推薦書	研究計画書	業務経歴書	口述試験
推薦入試	-	-	◎	◎	○	-	-	-
一般入試	◎	-	○	○	-	-	-	-
社会人入試	-	◎	-	-	-	○	△	◎

⑤入学前に習得すべき内容・水準

- 機械工学及びその基礎となる物理学、数学に関する学部レベルの専門基礎知識
- 学術論文を読み解くために必要な英語読解力
- 熱流体工学、固体力学、材料・加工、制御工学のいずれかの分野における学部レベルの専門知識
- データ処理、論文作成に必要なコンピュータリテラシー

電気電子工学専攻

①基本方針

電気電子工学専攻修士課程では、エレクトロニクス・電気エネルギー・電気電子デバイス分野における高度で深い電気電子工学の学識を身につけ、さらに自らの得意領域における研究テーマに創造的なアプローチで取り組むことで、実社会で要求される電気電子工学関連の諸問題を解決できる能力を

有する高度専門技術者、また知識基盤社会をリードする高度で知的な素養と社会性を備えた技術者、及び研究機関や大学等における研究者を養成します。
そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

②求める人材像と学力の3要素

	知識技能	思考力判断力表現力	主体性多様性協働性
自ら形成した得意分野を持ち、新たな課題を発見し解決して行うとする研究意欲のある人	△	◎	○
社会の新たな要求に対応できる知識・能力を身につけたいという強い意欲を持つ社会人	○	△	◎
専門知識と基礎的な研究能力を生かして新しい研究分野を先導する意欲のある人	◎	○	△
専門分野の知識に基づいて自分の考えを的確に表現し、他者と協働できる人	○	△	◎

③学力の3要素と求める学習成果

知識・技能	学力試験	成績証明書	推薦書	業務経歴書	口述試験
思考力・判断力・表現力	学力試験	小論文	面接	成績証明書	研究計画書 口述試験
主体性・多様性・協働性	小論文	面接	推薦書	研究計画書	口述試験

④求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	小論文	面接	成績証明書	推薦書	研究計画書	業務経歴書	口述試験
推薦入試	-	-	◎	◎	○	-	-	-
一般入試	◎	-	○	○	-	-	-	-
社会人入試	-	◎	-	-	-	○	△	◎

⑤入学前に習得すべき内容・水準

- 電気電子工学及びその基礎となる物理学、数学に関する学部レベルの専門基礎知識
- 学術論文を読み解くために必要な英語読解力
- エレクトロニクス、電力エネルギー、電気電子デバイスのいずれかの分野における学部レベルの専門知識
- データ処理、論文作成に必要なコンピュータリテラシー

情報工学専攻

①基本方針

情報工学分野における高度で深い学識を身につけ、さらに自らの得意領域における研究テーマに創造的なアプローチで取り組むことで、実社会で要求される情報工学関連の諸問題を解決できる能力を有する高度専門技術者、また知識基盤社会をリードする高度で知的な素養と社会性を備えた技術者、及

び研究機関や大学等における研究者の養成を目的としています。
そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

②求める人材像と学力の3要素

	知識技能	思考力判断力表現力	主体性多様性協働性
自ら形成した得意分野を持ち、新たな課題を発見し解決して行うとする研究意欲のある人	△	◎	○
社会の新たな要求に対応できる知識・能力を身につけたいという強い意欲を持つ社会人	○	△	◎
専門知識と基礎的な研究能力を生かして新しい研究分野を先導する意欲のある人	◎	○	△
専門分野の知識に基づいて自分の考えを的確に表現し、他者と協働できる人	○	△	◎

③学力の3要素と求める学習成果

知識・技能	学力試験	成績証明書	推薦書	業務経歴書	口述試験
思考力・判断力・表現力	学力試験	小論文	面接	成績証明書	研究計画書 口述試験
主体性・多様性・協働性	小論文	面接	推薦書	研究計画書	口述試験

④求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	小論文	面接	成績証明書	推薦書	研究計画書	業務経歴書	口述試験
推薦入試	-	-	◎	◎	○	-	-	-
一般入試	◎	-	○	○	-	-	-	-
社会人入試	-	◎	-	-	-	○	△	◎

⑤入学前に習得すべき内容・水準

- 情報工学及びその基礎となる数学に関する学部レベルの専門基礎知識
- 学術論文を読み解くために必要な英語読解力
- 自らの得意分野における学部レベルの専門知識
- データ処理、講演発表、論文作成に必要なコンピュータリテラシー

①基本方針

建築学専攻修士課程では、建築計画・意匠学、建築環境・設備工学、建築構造工学、建築材料学、建築生産工学の各分野における積雪寒冷地固有の対策技術も含めた最新の設計手法や建築技術の習得のもと、自らの得意領域で、今後の社会の発展に寄与できる課題を見出し、高度な課題解決能力で地

域社会に貢献するとともに、持続可能で安全・安心な居住環境を創出できる建築設計者・技術者又は研究者を養成します。
そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

②求める人材像と学力の3要素

	知識技能	思考力判断力表現力	主体性多様性協働性
自ら形成した得意分野を持ち、新たな課題を発見し解決して行うこととする研究意欲のある人	△	◎	○
社会の新たな要求に対応できる知識・能力を身につけたいという強い意欲を持つ社会人	○	△	◎
専門知識と基礎的な研究能力を生かして新しい研究分野を先導する意欲のある人	◎	○	△
専門分野の知識に基づいて自分の考えを的確に表現し、他者と協働できる人	○	△	◎

③学力の3要素と求める学習成果

知識・技能	学力試験	成績証明書	推薦書	業務経歴書	口述試験
思考力・判断力・表現力	学力試験	小論文	面接	成績証明書	研究計画書 口述試験
主体性・多様性・協働性	小論文	面接	推薦書	研究計画書	口述試験

④求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	小論文	面接	成績証明書	推薦書	研究計画書	業務経歴書	口述試験
推薦入試	-	-	◎	◎	○	-	-	-
一般入試	◎	-	○	○	-	-	-	-
社会人入試	-	◎	-	-	-	○	△	◎

⑤入学前に習得すべき内容・水準

- 建築学及びその基礎となる物理学、数学に関する学部レベルの専門基礎知識
- 学術論文を読み解くために必要な英語読解力
- 建築計画・意匠学、建築環境・設備工学、建築構造工学、建築材料学、建築生産工学のいずれかの分野における学部レベルの専門知識
- データ処理、論文作成に必要なコンピュータリテラシー

①基本方針

建設と環境に関わる工学分野における学術的な基盤の上に、積雪寒冷地に関する高度な知識を身につけさせ、さらに自らの得意領域における研究テーマに創造的なアプローチで取り組むことで、実社会で要求される建設と環境に関わる工学関連の複合的な諸問題を解決できる能力を有する高度専門技

術者、社会基盤施設の整備・維持管理あるいは防災・減災の分野において、さまざまな意見や複合する課題を総合調整できる幅広い視野を有する技術者、及び研究機関や大学等における研究者の養成を目的としています。
そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

②求める人材像と学力の3要素

	知識技能	思考力判断力表現力	主体性多様性協働性
自ら形成した得意分野を持ち、新たな課題を発見し解決して行うこととする研究意欲のある人	△	◎	○
社会の新たな要求に対応できる知識・能力を身につけたいという強い意欲を持つ社会人	○	△	◎
専門知識と基礎的な研究能力を生かして新しい研究分野を先導する意欲のある人	◎	○	△
専門分野の知識に基づいて自分の考えを的確に表現し、他者と協働できる人	○	△	◎

③学力の3要素と求める学習成果

知識・技能	学力試験	成績証明書	推薦書	業務経歴書	口述試験
思考力・判断力・表現力	学力試験	小論文	面接	成績証明書	研究計画書 口述試験
主体性・多様性・協働性	小論文	面接	推薦書	研究計画書	口述試験

④求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	小論文	面接	成績証明書	推薦書	研究計画書	業務経歴書	口述試験
推薦入試	-	-	◎	◎	○	-	-	-
一般入試	◎	-	○	○	-	-	-	-
社会人入試	-	◎	-	-	-	○	△	◎

⑤入学前に習得すべき内容・水準

- 都市環境学及びその基礎となる物理学、数学に関する学部レベルの専門基礎知識
- 学術論文を読み解くために必要な英語読解力
- 建設と環境に関わる工学分野における高度に専門化された学部レベルの専門知識
- データ処理、論文作成に必要なコンピュータリテラシー

博士後期課程

①基本方針

機械工学、情報工学、電気電子工学、医療工学、建築学、都市環境学のいずれかの領域における豊かな学識を基礎として独自の視点から学術的知見を提供できる研究能力と、他者と協力して俯瞰的視点から課題解決にあたることのできるマネジメント力、リーダーシップを具え、細分化する専門分野の枠

を越えて実践的に活躍できる研究者あるいは高度専門技術者を養成します。
そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

②求める人材像と学力の3要素

	知識技能	思考力判断力表現力	主体性多様性協働性
修士課程で得た基礎的な研究能力を発展させて、自立した創造的研究を進める意欲のある人	◎	○	△
実務経験を通して専門分野を深めた経験を生かして、新しい研究分野を先導する意欲のある人	△	◎	○
専門分野の枠を超え、他者と協力して北海道や地域の活性化に寄与したいという意欲を持つ人	△	○	◎

③学力の3要素と求める学習成果

知識・技能	学力試験	成績証明書	口述試験
思考力・判断力・表現力	学力試験	口述試験	研究計画書 研究業績
主体性・多様性・協働性	業務経歴書	口述試験	研究計画書

④求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	成績証明書	業務経歴書	口述試験	研究計画書	研究業績リスト
一般入試	◎	○	-	◎	○	○
社会人入試	-	○	○	◎	◎	◎

⑤入学前に習得すべき内容・水準

- 工学及びその基礎となる物理学、数学に関する修士課程修了レベルの知識・技能
- 機械工学、情報工学、電気電子工学、医療工学、建築学、都市環境学のいずれかの分野における修士課程修了レベルの専門知識
- 学術論文を読み解くために必要な英語読解力
- データ処理、論文作成に必要なコンピュータリテラシー

薬学研究科

GRADUATE SCHOOL OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

博士課程

※記号(◎, ○, △)は重要度の順序を表しています。

薬学専攻

①基本方針

薬剤師としての知識を基礎に、実務に直結する研究課題を自らが発見・解決する高度な専門職業人として、科学的思考・研究マインド・研究能力を身に付け、地域医療の担い手として、薬剤師業務の普及・指導に関わる意欲ある薬剤師、専門薬剤師などを目指す高度医療に携わる意欲ある薬剤師、及び薬学

の研究者及び6年制薬学教育に関わる大学教員を目指す薬剤師を養成します。

そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

②求める人材像と学力の3要素

	知識技能	思考力判断力表現力	主体性多様性協働性
薬剤師業務の普及・指導に関わる意欲ある薬剤師	△	○	◎
専門薬剤師などをを目指す高度医療に携わる意欲ある薬剤師	○	◎	△
薬学の研究者及び6年制薬学教育に関わる大学教員を目指す薬剤師	◎	△	○

③学力の3要素と求める学習成果

知識・技能	小論文	面接	成績証明書	推薦書
思考力・判断力・表現力	小論文	面接	推薦書	研究計画書
主体性・多様性・協働性	面接	推薦書	研究計画書	業務経歴書

④求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	小論文	面接	成績証明書	推薦書	研究計画書	業務経歴書
一般入試	◎	◎	○	○	△	—
社会人入試	◎	◎	△	—	△	○

⑤入学前に習得すべき内容・水準

- 薬剤師として必要とされる基礎的知識
- 薬学研究を行うための思考力・判断力と取り組み意欲
- 他者と良好な関係を築くためのコミュニケーション能力
- 学部学生、地域医療を担う薬剤師を支援する意欲
- 日本国の薬剤師免許を有する者及び入学までに取得する見込みの者

保健医療学研究科

GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES

修士課程

※記号(◎, ○, △)は重要度の順序を表しています。

看護学専攻

①基本方針

看護学専攻修士課程では、学部において看護学分野に関する基礎的、基本的な知識や能力を修得した者を受入れることとしており、看護学分野の教育を修めた者、既に医療現場等において看護実践に携わる職業人を受入れることにより、教育機会の拡大と多様な学生の受入れに積極的に対応します。

そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

②求める人材像と学力の3要素

	知識技能	思考力判断力表現力	主体性多様性協働性
看護学分野に対する強い興味と関心並びに学習意欲を有している人	◎	△	○
看護学分野の基礎的な知識及び基本的な技術と態度を有している人	◎	○	△
物事を多面的かつ論理的に考察し、適切に判断することができる人	△	○	◎
自分の考えを的確に表現し、相手に確実に伝達することができる人	○	◎	△

③学力の3要素と求める学習成果

知識・技能	学力試験	成績証明書	推薦書	業務経歴書	口述試験
思考力・判断力・表現力	学力試験	小論文	面接	成績証明書	研究計画書
主体性・多様性・協働性	小論文	面接	推薦書	研究計画書	口述試験

④求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	小論文	面接	成績証明書	推薦書	研究計画書	業務経歴書	口述試験
推薦入試	—	—	◎	◎	○	—	—	—
一般入試	◎	—	○	○	—	—	—	—
社会人入試	—	◎	—	—	—	○	△	◎

⑤入学前に習得すべき内容・水準

- 看護学の基礎となる解剖生理学、病態生理学に関する学部レベルの専門基礎知識
- 看護学の学部レベルの専門知識
- 学術論文を読み解くために必要な英語読解力

①基本方針

リハビリテーション科学専攻修士課程では、学部において理学療法学分野又は義肢装具学分野に関する基礎的、基本的な知識や能力を修得した者を受入れることとしており、理学療法学や義肢装具学の教育を修めた者、既に医療現場等において理学療法実践や義肢装具実践に携わる職業人を受入れるこ

とにより、教育機会の拡大と多様な学生の受入れに積極的に対応します。そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

②求める人材像と学力の3要素

	知識技能	思考力判断力表現力	主体性多様性協働性
理学療法学分野又は義肢装具学分野に対する強い興味と関心並びに学習意欲を有している人	◎	○	△
理学療法学分野又は義肢装具学分野の基礎的な知識及び基本的な技術と態度を有している人	◎	○	△
物事を多面的かつ論理的に考察し、適切に判断することができる人	△	○	◎
自分の考えを的確に表現し、相手に確実に伝達することができる人	△	◎	○

③学力の3要素と求める学習成果

知識・技能	学力試験	成績証明書	推薦書	業務経歴書	口述試験
思考力・判断力・表現力	学力試験	小論文	面接	成績証明書	研究計画書 口述試験
主体性・多様性・協働性	小論文	面接	推薦書	研究計画書	口述試験

④求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	小論文	面接	成績証明書	推薦書	研究計画書	業務経歴書	口述試験
推薦入試	-	-	◎	◎	○	-	-	-
一般入試	◎	-	○	○	-	-	-	-
社会人入試	-	◎	-	-	-	○	△	◎

⑤入学前に習得すべき内容・水準

- 理学療法学又は義肢装具学の学部レベルの専門基礎知識
- 理学療法学又は義肢装具学の学部レベルの専門知識
- 学術論文を読み解くために必要な英語読解力

①基本方針

医療技術学専攻修士課程では、学部において臨床工学分野又は放射線技術学分野に関する基礎的、基本的な知識や能力を修得した者を受入れることとしており、臨床工学又は放射線技術学の教育を修めた者、既に医療現場等において臨床工学実践や放射線技術実践に携わる職業人を受入れることに

より、教育機会の拡大と多様な学生の受入れに積極的に対応します。そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

②求める人材像と学力の3要素

	知識技能	思考力判断力表現力	主体性多様性協働性
臨床工学分野又は放射線技術学分野に対する強い興味と関心並びに学習意欲を有している人	◎	△	○
臨床工学分野又は放射線技術学分野の基礎的な知識及び基本的な技術と態度を有している人	◎	○	△
物事を多面的かつ論理的に考察し、適切に判断することができる人	△	○	◎
自分の考えを的確に表現し、相手に確実に伝達することができる人	○	◎	△

③学力の3要素と求める学習成果

知識・技能	学力試験	成績証明書	推薦書	業務経歴書	口述試験
思考力・判断力・表現力	学力試験	小論文	面接	成績証明書	研究計画書 口述試験
主体性・多様性・協働性	小論文	面接	推薦書	研究計画書	口述試験

④求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	小論文	面接	成績証明書	推薦書	研究計画書	業務経歴書	口述試験
推薦入試	-	-	◎	◎	○	-	-	-
一般入試	◎	-	○	○	-	-	-	-
社会人入試	-	◎	-	-	-	○	△	◎

⑤入学前に習得すべき内容・水準

- 臨床工学又は放射線技術学の基礎となる物理学、数学、解剖学に関する学部レベルの専門基礎知識
- 医療工学、臨床医学、医用画像情報学、放射線治療学、画像診断学のいずれかの分野における学部レベルの専門知識
- 学術論文を読み解くために必要な英語読解力
- データ処理、論文作成に必要なコンピュータリテラシー

博士後期課程

①基本方針

看護学分野、理学療法学分野、義肢装具学分野、臨床工学分野、放射線技術学分野のいずれかの領域における豊かな学識を基礎として、学術研究を担う能力を有して、現代社会が直面する保健医療分野の諸課題を多角的に分析し、専門分野における問題解決に向けた理論や実践を開発することのできる研究者、及び授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分

野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる教育者を養成します。

そのために、各領域の修士課程を修了した者又は研究機関や医療現場等において実践を積んだ職業人を受入れ、教育機会の拡大と多様な学生の受入れに積極的に対応します。

②求める人材像と学力の3要素

	知識技能	思考力判断力表現力	主体性多様性協働性
研究者又は大学教員に対する強い志望動機と職業意欲を有している人	◎	○	△
専攻分野に関する基礎的な研究能力と高度な専門知識を有している人	◎	○	△
物事を多面的かつ論理的に考察でき、適切に判断することができる人	△	◎	○
自分の考えを的確に表現でき、相手に確実に伝達することができる人	△	○	◎

③学力の3要素と求める学習成果

知識・技能	学力試験	成績証明書	口述試験	研究業績
思考力・判断力・表現力	学力試験	口述試験	研究計画書	研究業績
主体性・多様性・協働性	業務経歴書	口述試験	研究計画書	

④求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	成績証明書	業務経歴書	口述試験	研究計画書	研究業績リスト
一般入試	◎	○	-	◎	○	○
社会人入試	-	○	○	◎	◎	◎

⑤入学前に習得すべき内容・水準

- 看護学分野、理学療法学分野、義肢装具学分野、臨床工学分野、放射線技術学分野いずれかの分野における修士課程修了レベルの専門知識及び技能
- 学術論文を読み解くために必要な英語読解力
- データ処理、論文作成に必要なコンピュータリテラシー

入学試験日程

試験区分	課程・専攻					出願期間	試験日	合格発表	掲載ページ
	修士		博士						
	工学研究科	保健医療学 研究科	薬学専攻	工学専攻	保健医療学 専攻				
修士課程推薦入試	○					2026年 6月 2日(火)～ 6月 9日(火)必着	7月 3日(金)	8月 3日(月)	6-7
		○				2026年 10月 6日(火)～ 10月13日(火)必着	11月 5日(木)	12月 1日(火)	
修士課程一般入試 【前期】	○					2026年 6月 2日(火)～ 6月 9日(火)必着	7月 3日(金)	8月 3日(月)	8-9
		○				2026年 10月 6日(火)～ 10月13日(火)必着	11月 5日(木)	12月 1日(火)	
修士課程一般入試 【後期】	○	○				2027年 1月13日(水)～ 1月20日(水)必着	2月15日(月)	3月 3日(水)	
修士課程社会人入試 【前期】	○					2026年 6月 2日(火)～ 6月 9日(火)必着	7月 3日(金)	8月 3日(月)	10-11
		○				2026年 10月 6日(火)～ 10月13日(火)必着	11月 5日(木)	12月 1日(火)	
修士課程社会人入試 【後期】	○	○				2027年 1月13日(水)～ 1月20日(水)必着	2月15日(月)	3月 3日(水)	
博士課程一般入試 【前期】			○			2026年 6月 2日(火)～ 6月 9日(火)必着	7月 3日(金)	8月 3日(月)	12-13
博士課程社会人入試 【前期】			○						14-15
博士課程一般入試 【後期】			○			2027年 1月13日(水)～ 1月20日(水)必着	2月15日(月)	3月 3日(水)	12-13
博士課程社会人入試 【後期】			○						14-15
博士後期課程一般入試				○	○	2027年 1月13日(水)～ 1月20日(水)必着	2月15日(月)	3月 3日(水)	16-17
博士後期課程社会人入試				○	○				18-19

※ [前期] 試験において入学定員を充足した場合、[後期] 試験を実施しないことがあります。

工学研究科・保健医療学研究科 修士課程 推薦入試

推薦入試について

北海道科学大学からの進学希望者で、人物・学力ともに優秀な学生の大学院進学を奨めるため、学部4年次進級時における学業成績を中心に、入学定員のおよそ半数の学生について、推薦による入学を認めます。
推薦入試は、出身（卒業予定）学科を問わず、いずれの専攻へも出願可能です。

募集人員

研究科	専攻	募集人員
工学研究科	機械工学専攻	2～3名
	電気電子工学専攻	2名
	情報工学専攻	2名
	建築学専攻	2名
	都市環境学専攻	2名
	看護学専攻	2名
保健医療学研究科	リハビリテーション科学専攻	2名
	医療技術学専攻	2名

出願資格

本学を2027年3月卒業見込みで、卒業研究指導教員の推薦を受けた者であり、本学志望専攻を専願とする者（学部4年次進級時における学業成績が学科全体の上位1/5以内であること）

出願手続

出願期間	[工学研究科] 2026年 6月 2日(火)～ 6月 9日(火)必着 [保健医療学研究科] 2026年10月 6日(火)～10月13日(火)必着
出願書類	①志願票・受験票（本学所定様式） ②成績証明書（北海道科学大学長が作成し、厳封したもの） ③推薦書＊（本学所定様式に卒業研究指導教員が作成し、厳封したもの） ④入学金免除申請書（23ページを確認してください） ＊推薦書は入試広報課窓口にてお渡しします。
入学検定料	30,000円 （出願期間の1週間前から納入可能です。） ※本学所定の振込依頼書を使用し、金融機関の窓口から出願前に納入してください。 ※一旦納入された入学検定料は、返還いたしません。
出願方法	出願書類は「入学試験出願用」封筒に一括封入し、速達簡易書留で郵送してください。 （入試広報課窓口での受付も行います。本学休業日を除く平日の月～金曜日9:00～17:00）

選考試験

選考方法	アドミッションポリシーに基づき、書類審査及び面接試験により総合的に合否を判定します。
試験日	[工学研究科] 2026年 7月 3日(金) [保健医療学研究科] 2026年11月 5日(木)
試験時間	[集合] 9:30（試験当日は、集合時間までに本学入試広報課へお越しください） [面接試験] 10:00～

試験場

北海道科学大学（札幌市手稲区前田7条15丁目4-1）

合格発表

【工 学 研 究 科】2026年 8月 3日(月)

【保健医療学研究科】2026年12月 1日(火)

合格発表は、次の方法で行います。

ア 本学 HP：合格発表日の10時に本学 HP で合格者の受験番号が確認できます。

イ 文書通知：出願時に登録した住所宛に選考結果通知書を郵送します（合格発表日当日に本学より簡易書留で発送）。
合格者には入学手續のご案内をします。

入学手續期間

下記期間内に専用の web フォームより所定の手続きを行い、「授業料・その他の経費」を金融機関の窓口から納入してください。なお北海道科学大学を卒業（見込）の場合、「入学金」が免除となります。

	システム登録	授業料・その他の経費
工 学 研 究 科	2026年 8月 3日(月)～12月11日(金)	2026年 8月 3日(月)～2027年 2月10日(水)
保 健 医 療 学 研 究 科	2026年12月 1日(火)～12月11日(金)	2026年12月 1日(火)～2027年 2月10日(水)

※詳細は、選考結果通知書に同封する「入学手續案内」を確認してください。

工学研究科・保健医療学研究科 修士課程 一般入試 [前期]・[後期]

募集人員

研究科	専攻	募集人員
工学研究科	機械工学専攻	2~3名
	電気電子工学専攻	2名
	情報工学専攻	2名
	建築学専攻	2名
	都市環境学専攻	2名
保健医療学研究科	看護学専攻	2名
	リハビリテーション科学専攻	1名
	医療技術学専攻	1名

出願資格

■次の①～⑧のいずれかに該当する者

- ①大学を卒業した者及び2027年3月までに卒業見込みの者
- ②学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び2027年3月までに授与される見込みの者
- ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び2027年3月までに修了見込みの者
- ④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2027年3月までに修了見込みの者
- ⑤我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされる者に限る。）を有する者として当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2027年3月までに修了見込みの者
- ⑥専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること。その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2027年3月までに修了見込みの者
- ⑦文部科学大臣の指定した者
- ⑧本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、本学入学までに22歳に達した者

（注）出願資格⑧に該当する者は、期日までに事前審査申込をすること。詳細は P25 「出願資格の事前審査について」をご確認ください。

事前審査申込

申込期日	前期 [工学研究科] 2026年 5月 7日(木)必着 [保健医療学研究科] 2026年 9月 7日(月)必着 後期 2026年11月10日(火)必着
提出書類	事前審査申込書と併せて出願書類の②、③を提出してください。 ※事前審査申込書は本学 HP（受験生サイト）から様式をダウンロードしてください。
審査結果通知日	前期 [工学研究科] 2026年 5月25日(月) [保健医療学研究科] 2026年 9月28日(月) 後期 2027年 1月 6日(水)

出願手続

出願期間	前期 [工学研究科] 2026年 6月 2日(火)～ 6月 9日(火)必着 [保健医療学研究科] 2026年10月 6日(火)～10月13日(火)必着 後期 2027年 1月13日(水)～ 1月20日(水)必着 （注）[前期] 試験において入学定員を充足した場合、[後期] 試験を実施しない場合があります。
出願書類	①志願票・受験票（本学所定様式） ②成績証明書（最終学歴）出身学校長が作成し、厳封したもの ③卒業証明書又は卒業見込証明書（最終学歴）出身学校長が作成し、厳封したもの ④学位授与証明書又は学位授与申請受理証明書（出願資格②に該当する者のみ） ⑤住民票の写し又はパスポートの写し（外国籍の方のみ） ※事前審査申込時に②、③の書類を提出済の場合、再提出は不要です。
入学検定料	30,000円 （出願期間の1週間前から納入可能です。） ※本学所定の振込依頼書を使用し、金融機関の窓口から出願前に納入してください。 ※一旦納入された入学検定料は、返還いたしません。
出願方法	出願書類は「入学試験出願用」封筒に一括封入し、速達簡易書留で郵送してください。 （入試広報課窓口での受付も行います。本学休業日を除く平日の月～金曜日9:00～17:00）

選考試験

選考方法	アドミッションポリシーに基づき、筆記試験（外国語〈100点〉・専門科目〈2科目各100点 200点満点〉）及び面接試験〈100点〉により総合的に合否を判定します。				
試験日	前期 [工学研究科] 2026年 7月 3日(金) [保健医療学研究所] 2026年11月 5日(木) 後期 2027年 2月15日(月)				
試験時間	[集合] 10:00（試験当日は、集合時間までに本学入試広報課へお越しください） [筆記試験(外国語)] 10:30~11:30 [筆記試験(専門科目)] 13:00~15:00 [面接試験] 15:30~				
試験科目	外国語 ※辞書持ち込み可（電子辞書は不可）				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各専攻共通</td> <td>英語 ※外国籍の方の場合、外国語試験は「日本語」で行います。</td> </tr> </tbody> </table>	科目		各専攻共通	英語 ※外国籍の方の場合、外国語試験は「日本語」で行います。
科目					
各専攻共通	英語 ※外国籍の方の場合、外国語試験は「日本語」で行います。				

専門科目（電気電子工学専攻、情報工学専攻は必修科目1科目、選択科目1科目の2科目を解答、その他の専攻は選択科目から2科目を選択して解答）

	科目
機械工学専攻	選択科目：工業数学、材料力学、工業熱力学、流体力学、機械力学、機械材料、制御工学 必修科目：数学（微分積分・線形代数・微分方程式・ベクトル解析）
電気電子工学専攻	選択科目：エレクトロニクス（電子回路、コンピュータ工学、デジタル回路）、電力エネルギー（電気回路、エネルギー工学、電気電子計測）、電気電子デバイス（電気磁気学、半導体及び電子材料）
情報工学専攻	必修科目：数理・データサイエンス・AI 選択科目：情報処理、ソフトウェア開発、情報ネットワーク
建築学専攻	選択科目：建築設計、建築計画（建築史、建築計画、都市計画、住環境計画）、建築環境・設備（建築環境工学、建築設備）、建築構造（構造力学、建築構造）、建築生産（建築材料、建築施工）
都市環境学専攻	選択科目：構造力学、コンクリート工学、水理学、道路工学、地盤工学、交通計画
看護学専攻	選択科目：基礎看護学、成人看護学、母子看護学、老年看護学、地域看護学、精神看護学
リハビリテーション科学専攻	理学療法学領域 選択科目：リハビリテーション学、リハビリテーション工学、生活活動支援学、理学療法評価学、理学療法治療学 義肢装具学領域 選択科目：リハビリテーション学、リハビリテーション工学、義肢装具学動作分析、義肢学、装具学
医療技術学専攻	臨床工学領域 選択科目：臨床生理学、生化学、生体機能代行装置学、医用機器学、電気電子工学 放射線技術学領域 選択科目：診療画像技術学、核医学検査技術学、放射線治療技術学、医療画像情報学、放射線管理計測学

試験場

北海道科学大学（札幌市手稲区前田7条15丁目4-1）

合格発表

前期 [工学研究科] 2026年 8月 3日(月)
[保健医療学研究所] 2026年12月 1日(火)

後期 2027年 3月 3日(水)

合格発表は、次の方法で行います。

ア 本学 HP：合格発表日の10時に本学 HP で合格者の受験番号が確認できます。

イ 文書通知：出願時に登録した住所宛に選考結果通知書を郵送します（合格発表日当日に本学より簡易書留で発送）。

合格者には入学手続のご案内をします。

入学手続期間

下記期間内に専用の web フォームより所定の手続きを行い、「入学金」・「授業料・その他の経費」を金融機関の窓口から納入してください。

	システム登録	入学金	授業料・その他の経費
前期	工学研究科	2026年 8月 3日(月)~12月11日(金)	2026年 8月 3日(月)~2027年 2月10日(水)
	保健医療学研究所	2026年12月 1日(火)~12月11日(金)	2026年12月 1日(火)~2027年 2月10日(水)
後期	工学研究科	2027年 3月 3日(水)~ 3月10日(水)	
	保健医療学研究所		

※詳細は、選考結果通知書に同封する「入学手続案内」を確認してください。

※一旦納入された入学金は返還いたしません。

入学辞退

入学手続完了後、入学を辞退する場合は、速やかに本学入試広報課へ連絡し、所定の手続きを行ってください。「入学金を除く授業料・その他の経費」の返還に係る連絡期限は、2027年 3月31日(水) 17:00（厳守）となります。

工学研究科・保健医療学研究科 修士課程 社会人入試 [前期]・[後期]

募集人員

研究科	専攻	募集人員
工学研究科	機械工学専攻 電気電子工学専攻 情報工学専攻 建築学専攻 都市環境学専攻	各専攻若干名
保健医療学研究科	看護学専攻 リハビリテーション科学専攻 医療技術学専攻	各専攻1名

出願資格

- 工学研究科は、官公庁・学校・企業等において、技術者・教員・研究者等として出願時点において2年以上勤務経験を有する者で、次の①～③のいずれかに該当する者
- 保健医療学研究科は、保健・医療・福祉機関又は施設・官公庁・学校・企業等において、関連の専門領域にて出願時点において2年以上勤務経験を有する者で、次の①～③のいずれかに該当する者
- ①大学を卒業した者
- ②学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- ③外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- ④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- ⑤我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされる者に限る。）を有する者として当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ⑥専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること。その他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑦文部科学大臣の指定した者
- ⑧本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、本学入学までに22歳に達した者

（注）出願資格⑥に該当する者は、期日までに事前審査申込をすること。詳細はP25「出願資格の事前審査について」をご確認ください。

事前審査申込

申込期日	前期 [工学研究科] 2026年 5月 7日(木)必着 [保健医療学研究科] 2026年 9月 7日(月)必着 後期 2026年11月10日(火)必着
提出書類	事前審査申込書と併せて出願書類の②、③、④、⑥を提出してください。 ※事前審査申込書は本学 HP（受験生サイト）から様式をダウンロードしてください。
審査結果通知日	前期 [工学研究科] 2026年 5月25日(月) [保健医療学研究科] 2026年 9月28日(月) 後期 2027年 1月 6日(水)

出願手続

出願期間	前期 [工学研究科] 2026年 6月 2日(火)～ 6月 9日(火)必着 [保健医療学研究科] 2026年10月 6日(火)～10月13日(火)必着 後期 2027年 1月13日(水)～ 1月20日(水)必着 （注）[前期] 試験において入学定員を充足した場合、[後期] 試験を実施しない場合があります。
出願書類	①志願票・受験票（本学所定様式） ②成績証明書（最終学歴）出身学校長が作成し、厳封したもの ③卒業証明書（最終学歴）出身学校長が作成し、厳封したもの ④研究業績を示す資料（主たる論文の写し） ※有する場合のみ ⑤研究計画書*（本学所定様式） ⑥職務経歴書*（本学所定様式） ⑦学位授与証明書又は学位授与申請受理証明書（出願資格②に該当する者のみ） ⑧住民票の写し又はパスポートの写し（外国籍の方のみ） *の書類は本学 HP（受験生サイト）から様式をダウンロードしてください。 ※事前審査申込時に②、③、④、⑥の書類を提出済の場合、再提出は不要です。

入学検定料	30,000円 (出願期間の1週間前から納入可能です。) ※本学所定の振込依頼書を使用し、金融機関の窓口から出願前に納入してください。 ※一旦納入された入学検定料は、返還いたしません。
出願方法	出願書類は「入学試験出願用」封筒に一括封入し、速達簡易書留で郵送してください。 (入試広報課窓口での受付も行います。本学休業日を除く平日の月～金曜日9:00～17:00)

長期履修学生制度について

社会人入試を経て入学する者のうち有職者を対象として長期履修学生制度を設けています。
詳細については、P58の「長期履修学生制度（概要）」を参照のうえ、下記書類を出願書類と一緒に提出してください。

- 【提出書類】
- ・長期履修申請書（本学所定様式）
 - ・長期履修が必要であることを証明する書類（勤務先が発行する在職証明書）

選考試験

選考方法	アドミッションポリシーに基づき、小論文及び口述試験により総合的に合否を判定します。
試験日	前期 [工 学 研 究 科] 2026年 7月 3日(金) [保健医療学研究科] 2026年11月 5日(木) 後期 2027年 2月15日(月)
試験科目・時間	[集 合] 10:00 (試験当日は、集合時間までに本学入試広報課へお越しください) [小 論 文] 10:30～11:30 [口述試験] 13:00～ 専門科目及び入学後の研究計画に関する口頭試問を行います。 ※外国籍の方も日本語で行います。

試験場

北海道科学大学（札幌市手稲区前田7条15丁目4-1）

合格発表

- 前期** [工 学 研 究 科] 2026年 8月 3日(月)
[保健医療学研究科] 2026年12月 1日(火)
後期 2027年 3月 3日(水)
- 合格発表は、次の方法で行います。
- ア 本学 HP：合格発表日の10時に本学 HP で合格者の受験番号が確認できます。
 - イ 文書通知：出願時に登録した住所宛に選考結果通知書を郵送します（合格発表日当日に本学より簡易書留で発送）。
合格者には入学手続のご案内をします。

入学手続期間

下記の期間内に専用の web フォームより所定の手続きを行い、「入学金」・「授業料・その他の経費」を金融機関の窓口から納入してください。

		システム登録	入学金	授業料・その他の経費
前期	工 学 研 究 科	2026年 8月 3日(月)～12月11日(金)		2026年 8月 3日(月)～2027年 2月10日(水)
	保健医療学研究科	2026年12月 1日(火)～12月11日(金)		2026年12月 1日(火)～2027年 2月10日(水)
後期	工 学 研 究 科	2027年 3月 3日(水)～ 3月10日(水)		
	保健医療学研究科			

※詳細は、選考結果通知書に同封する「入学手続案内」を確認してください。
※一旦納入された入学金は返還いたしません。

入学辞退

入学手続完了後、入学を辞退する場合は、速やかに本学入試広報課へ連絡し、所定の手続きを行ってください。「入学金を除く授業料・その他の経費」の返還に係る連絡期限は、2027年 3月31日(水)17:00（厳守）となります。

薬学研究科

博士課程 一般入試 [前期]・[後期]

募集人員

専攻名	募集人員
薬学専攻	3名*

※社会人入試の募集人員を含む

出願資格

■日本国の薬剤師免許を有する者及び2027年薬剤師国家試験を受験し薬剤師免許を取得する見込みの者で、次の①～⑥のいずれかに該当する者

- ①大学（6年制薬学教育課程）を卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者
- ②修士の学位を有する者及び2027年3月31日までに授与される見込みの者
- ③外国において修士の学位に相当する学位を授与された者及び2027年3月31日までに授与される見込みの者
- ④我が国において外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び2027年3月31日までに授与される見込みの者

⑤文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）

「大学を卒業し、大学、研究所等において、出願時点において2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者」及び「外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、出願時点において2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者」

⑥本学大学院において個別の入学資格審査により、大学（6年制薬学教育課程）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、本学入学までに24歳に達している者

(注)「出願資格」の⑤⑥に該当する者は、期日までに事前審査申込をすること。詳細はP25「出願資格の事前審査について」をご確認ください。

事前審査申込

申込期日	前期 2026年 5月 7日(木)必着 後期 2026年11月10日(火)必着
提出書類	事前審査申込書と併せて出願書類の②、③、④、⑥を提出してください。 ※事前審査申込書は本学 HP（受験生サイト）から様式をダウンロードしてください。
審査結果通知日	前期 2026年 5月25日(月) 後期 2027年 1月 6日(水)

出願手続

出願期間	前期 2026年 6月 2日(火)～ 6月 9日(火)必着 後期 2027年 1月13日(水)～ 1月20日(水)必着 (注) [前期] 試験で入学定員を充足した場合、[後期] 試験を行わないことがあります。
出願書類	<ol style="list-style-type: none"> ①志願票・受験票（本学所定様式） ②成績証明書（最終学歴）出身学校長が作成し、厳封したもの ③卒業（見込）証明書又は修了（見込）証明書（最終学歴）出身学校長が作成し、厳封したもの ④研究業績を示す資料（卒業論文又は修士論文の写し） ⑤研究計画書*（本学所定様式） ⑥日本国の薬剤師免許証のコピー（取得見込みの者は、遅延なく取得申請を行い、速やかに提出すること） ⑦住民票の写し又はパスポートの写し（外国籍の方のみ） *の書類は本学 HP（受験生サイト）から様式をダウンロードしてください。 ※事前審査申込時に②、③、④、⑥の書類を提出済の場合、再提出は不要です。

入学検定料	30,000円 (出願期間の1週間前から納入可能です。) ※本学所定の振込依頼書を使用し、金融機関の窓口から出願前に納入してください。 ※一旦納入された入学検定料は、返還いたしません。
-------	--

出願方法	出願書類は「入学試験出願用」封筒に一括封入し、速達簡易書留で郵送してください。 (入試広報課窓口での受付も行います。本学休業日を除く平日の月～金曜日9:00～17:00)
------	--

選考試験

選考方法	アドミッションポリシーに基づき、小論文(100点)、面接試験及び提出書類等により総合的に可否を判定します。
------	---

試験日	前期 2026年 7月 3日(金) 後期 2027年 2月15日(月)
-----	--

試験科目・時間	[集 合] 10:00 (試験当日は、集合時間までに本学入試広報課へお越しください) [小 論 文] 10:30～11:30 [面接試験] 13:00～
---------	--

試験場

北海道科学大学 (札幌市手稲区前田7条15丁目4-1)

合格発表

前期 2026年 8月 3日(月)
後期 2027年 3月 3日(水)

合格発表は、次の方法で行います。

- ア 本学 HP: 合格発表日の10時に本学 HP で合格者の受験番号が確認できます。
- イ 文書通知: 出願時に登録した住所宛に選考結果通知書を郵送します (合格発表日当日に本学より簡易書留で発送)。合格者には入学手續のご案内をします。

入学手續期間

下記期間内に専用の web フォームより所定の手続きを行い、「入学金」・「授業料・その他の経費」を金融機関の窓口から納入してください。

前期	システム登録	入学金	授業料・その他の経費
	2026年 8月 3日(月)～12月11日(金)		2026年 8月 3日(月)～2027年 2月10日(水)
後期	システム登録	入学金	授業料・その他の経費
	2027年 3月 3日(水)～ 3月10日(水)		

※詳細は、選考結果通知書に同封する「入学手續案内」を確認してください。

※一旦納入された入学金は返還いたしません。

入学辞退

入学手續完了後、入学を辞退する場合は、速やかに本学入試広報課へ連絡し、所定の手続きを行ってください。「入学金を除く授業料・その他の経費」の返還に係る連絡期限は、2027年 3月31日(水)17:00 (厳守) となります。

薬学研究科

博士課程 社会人入試 [前期]・[後期]

募集人員

専攻名	募集人員
薬学専攻	3名*

※一般入試の募集人数を含む

出願資格

- 日本国の薬剤師免許を有する者及び2027年薬剤師国家試験を受験し薬剤師免許を取得する見込みの者で、次の①又は②に該当し、かつ、③～⑧のいずれかに該当する者
- ①出願時に社会人であり、入学後も引き続きその身分を有する者であって、勤務先より受験許可を得られる者
 - ②4年制の薬学を履修する課程を卒業し、社会人（薬剤師）として出願時点において2年以上の実務経験があり、入学後も引き続きその身分を有する者であって、勤務先より受験許可を得られる者
 - ③大学（6年制薬学教育課程）を卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者
 - ④修士の学位を有する者及び2027年3月31日までに授与される見込みの者
 - ⑤外国において修士の学位に相当する学位を授与された者及び2027年3月31日までに授与される見込みの者
 - ⑥我が国において外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び2027年3月31日までに授与される見込みの者
 - ⑦文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
「大学を卒業し、大学、研究所等において、出願時点において2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者」及び「外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、出願時点において2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者」
 - ⑧本学大学院において個別の入学資格審査により、大学（6年制薬学教育課程）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、本学入学までに24歳に達している者
- （注）「出願資格」の⑦⑧に該当する者は、期日までに事前審査申込をすること。詳細はP25「出願資格の事前審査について」をご確認ください。

事前審査申込

申込期日	前期 2026年 5月 7日(木)必着 後期 2026年11月10日(火)必着
提出書類	事前審査申込書と併せて出願書類の②、③、④、⑥、⑧を提出してください。 ※事前審査申込書は本学 HP（受験生サイト）から様式をダウンロードしてください。
審査結果通知日	前期 2026年 5月25日(月) 後期 2027年 1月 6日(水)

出願手続

出願期間	前期 2026年 6月 2日(火)～ 6月 9日(火)必着 後期 2027年 1月13日(水)～ 1月20日(水)必着 (注) [前期] 試験で入学定員を充足した場合、[後期] 試験を行わないことがあります。
出願書類	<ol style="list-style-type: none"> ①志願票・受験票（本学所定様式） ②成績証明書（最終学歴）出身学校長が作成し、厳封したもの ③卒業（見込）証明書又は修了（見込）証明書（最終学歴）出身学校長が作成し、厳封したもの ④研究業績を示す資料（卒業論文又は修士論文の写し） ⑤研究計画書*（本学所定様式） ⑥日本国の薬剤師免許証のコピー（取得見込みの者は、遅延なく取得申請を行い、速やかに提出すること） ⑦住民票の写し又はパスポートの写し（外国籍の方のみ） ⑧受験許可書*（本学所定様式） <p>*の書類は本学 HP（受験生サイト）から様式をダウンロードしてください。 ※事前審査申込時に②、③、④、⑥、⑧の書類を提出済の場合、再提出は不要です。</p>

入学検定料	30,000円 (出願期間の1週間前から納入可能です。) ※本学所定の振込依頼書を使用し、金融機関の窓口から出願前に納入してください。 ※一旦納入された入学検定料は、返還いたしません。
出願方法	出願書類は「入学試験出願用」封筒に一括封入し、速達簡易書留で郵送してください。 (入試広報課窓口での受付も行います。本学休業日を除く平日の月～金曜日9:00～17:00)

長期履修学生制度について

社会人入試を経て入学する者のうち有職者を対象として長期履修学生制度を設けています。
 詳細については、P58の「長期履修学生制度(概要)」を参照のうえ、下記書類を出願書類と一緒に提出してください。
【提出書類】
 ・長期履修申請書(本学所定様式)
 ・長期履修が必要であることを証明する書類(勤務先が発行する在職証明書)

選考試験

選考方法	アドミッションポリシーに基づき、小論文(100点)、面接試験及び提出書類等により総合的に可否を判定します。
試験日	前期 2026年 7月 3日(金) 後期 2027年 2月15日(月)
試験科目・時間	[集 合] 10:00 (試験当日は、集合時間までに本学入試広報課へお越しください) [小 論 文] 10:30～11:30 [面接試験] 13:00～

試験場

北海道科学大学(札幌市手稲区前田7条15丁目4-1)

合格発表

前期 2026年 8月 3日(月)
後期 2027年 3月 3日(水)
 合格発表は、次の方法で行います。
 ア 本学HP:合格発表日の10時に本学HPで合格者の受験番号が確認できます。
 イ 文書通知:出願時に登録した住所宛に選考結果通知書を郵送します(合格発表日当日に本学より簡易書留で発送)。合格者には入学手続のご案内をします。

入学手続期間

下記期間内に専用のwebフォームより所定の手続きを行い、「入学金」・「授業料・その他の経費」を金融機関の窓口から納入してください。

前期	システム登録	入学金	授業料・その他の経費
	2026年 8月 3日(月)～12月11日(金)		2026年 8月 3日(月)～2027年 2月10日(水)
後期	システム登録	入学金	授業料・その他の経費
	2027年 3月 3日(水)～ 3月10日(水)		

※詳細は、選考結果通知書に同封する「入学手続案内」を確認してください。
 ※一旦納入された入学金は返還いたしません。

入学辞退

入学手続完了後、入学を辞退する場合は、速やかに本学入試広報課へ連絡し、所定の手続きを行ってください。「入学金を除く授業料・その他の経費」の返還に係る連絡期限は、2027年 3月31日(水)17:00(厳守)となります。

工学研究科・保健医療学研究科 博士後期課程 一般入試

募集人員

研究科	専攻名	募集人員
工学研究科	工学専攻	6名*
保健医療学研究科	保健医療学専攻	2名

※社会人入試の募集人員を含む

出願資格

■次の①～④のいずれかに該当する者

- ①修士の学位又は専門職学位を有する者及び2027年3月までに取得見込みの者
- ②外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者及び2027年3月までに授与される見込みの者
- ③文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）

「大学を卒業し、大学、研究所等において、出願時点において2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者」及び「外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、出願時点において2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者」

- ④本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、本学入学までに24歳に達した者

(注) 出願資格③、④に該当する者は、期日までに事前審査申込をすること。詳細は P25 「出願資格の事前審査について」をご確認ください。

事前審査申込

申込期日	2026年11月10日(火)必着
提出書類	各出願資格において△印の出願書類を提出してください。
審査結果通知日	2027年 1月 6日(水)

出願手続

出願期間	2027年 1月13日(水)～ 1月20日(水)必着
------	----------------------------

出願資格の各項(①～④)により、提出する書類が異なります。
△印は事前審査申込時に提出が必要です。出願時に再提出不要です。

出願書類の種類	出願資格の各項			
	①	②	③	④
志願票・受験票(本学所定様式)	○	○	○	○
成績証明書(最終学歴) (出身学校長が作成し、厳封したもの)	○	○	△	△
卒業(見込)証明書又は修了(見込)証明書(最終学歴) (出身学校長が作成し、厳封したもの)	○	○	△	△
研究業績を示す資料 (研究業績目録及び主たる研究論文の写しなど)	○	○	△	△
研究計画書*(本学所定様式)	○	○	○	○
職務経歴書*(本学所定様式)			△	△
外国籍の方のみ 住民票の写し又はパスポートの写し	○	○	○	○
事前審査申込書* (本学所定様式)			△	△

*の書類は本学 HP(受験生サイト)から様式をダウンロードしてください。

入学検定料	30,000円 (出願期間の1週間前から納入可能です。) ※本学所定の振込依頼書を使用し、金融機関の窓口から出願前に納入してください。 ※一旦納入された入学検定料は、返還いたしません。
出願方法	出願書類は「入学試験出願用」封筒に一括封入し、速達簡易書留で郵送してください。 (入試広報課窓口での受付も行います。本学休業日を除く平日の月～金曜日9:00～17:00)

選考試験

選考方法	アドミッションポリシーに基づき、外国語試験(100点)、口述試験及び書類審査により総合的に合否を判定します。
試験日	2027年 2月15日(月)
試験時間	[集 合] 10:00 (試験当日は、集合時間までに本学入試広報課へお越しください) [外国語] 10:30～11:30 [口述試験] 13:00～
試験科目	[外国語] 英語 ※外国籍の方の場合、外国語試験は「日本語」で行います。 [口述試験] 主要研究業績及び入学後の研究計画に関する口頭試問を行います。 ※外国籍の方も日本語で行います。

試験場

北海道科学大学 (札幌市手稲区前田7条15丁目4-1)

合格発表

2027年 3月 3日(水)

合格発表は、次の方法で行います。

- ア 本学 HP: 合格発表日の10時に本学 HP で合格者の受験番号が確認できます。
- イ 文書通知: 出願時に登録した住所宛に選考結果通知書を郵送します (合格発表日当日に本学より簡易書留で発送)。合格者には入学手続のご案内をします。

入学手続期間

下記期間内に専用の web フォームより所定の手続きを行い、「入学金」・「授業料・その他の経費」を金融機関の窓口から納入してください。

システム登録	入学金	授業料・その他の経費
2027年 3月 3日(水)～ 3月10日(水)		

- ※詳細は、選考結果通知書に同封する「入学手続案内」で確認してください。
- ※一旦納入された入学金は返還いたしません。

入学辞退

入学手続完了後、入学を辞退する場合は、速やかに本学入試広報課へ連絡し、所定の手続きを行ってください。「入学金を除く授業料・その他の経費」の返還に係る連絡期限は、2027年 3月31日(水)17:00(厳守)となります。

工学研究科・保健医療学研究科 博士後期課程 社会人入試

募集人員

研究科	専攻名	募集人員
工学研究科	工学専攻	6名*
保健医療学研究科	保健医療学専攻	1名

※一般入試の募集人員を含む

出願資格

■官公庁・学校・企業等において、技術者・教員・研究者等として出願時点において2年以上勤務経験を有する者で、次の①～④のいずれかに該当する者

①修士の学位又は専門職学位を有する者（入学時までには該当する見込みの者を含む）

②外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

③文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）

「大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者」及び「外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者」

④本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、本学入学までに24歳に達した者

(注) 出願資格③、④に該当する者は、期日までに事前審査申込をすること。詳細は P25 「出願資格の事前審査について」をご確認ください。

事前審査申込

申込期日	2026年11月10日(火)必着
提出書類	各出願資格において△印の出願書類を提出してください。
審査結果通知日	2027年 1月 6日(水)

出願手続

出願期間 2027年 1月13日(水)～ 1月20日(水)必着

出願書類 出願資格の各項(①～④)により、提出する書類が異なります。
△印は事前審査申込時に提出が必要です。出願時に再提出不要です。

出願書類の種類	出願資格の各項			
	①	②	③	④
志願票・受験票(本学所定様式)	○	○	○	○
成績証明書(最終学歴) (出身学校長が作成し、厳封したもの)	○	○	△	△
卒業(見込)証明書又は修了(見込)証明書(最終学歴) (出身学校長が作成し、厳封したもの)	○	○	△	△
研究業績を示す資料 (研究業績目録及び主たる研究論文の写しなど)	○	○	△	△
研究計画書*(本学所定様式)	○	○	○	○
職務経歴書*(本学所定様式)			△	△
外国籍の方のみ 住民票の写し又はパスポートの写し	○	○	○	○
事前審査申込書* (本学所定様式)			△	△

*の書類は本学 HP (受験生サイト) から様式をダウンロードしてください。

入学検定料	30,000円 (出願期間の1週間前から納入可能です。) ※本学所定の振込依頼書を使用し、金融機関の窓口から出願前に納入してください。 ※一旦納入された入学検定料は、返還いたしません。
出願方法	出願書類は「入学試験出願用」封筒に一括封入し、速達簡易書留で郵送してください。 (入試広報課窓口での受付も行います。本学休業日を除く平日の月～金曜日9:00～17:00)

長期履修学生制度について

社会人入試を経て入学する者のうち有職者を対象として長期履修学生制度を設けています。
詳細については、P58の「長期履修学生制度（概要）」を参照のうえ、下記書類を出願書類と一緒に提出してください。

【提出書類】

- ・長期履修申請書（本学所定様式）
- ・長期履修が必要であることを証明する書類（勤務先が発行する在職証明書）

選考試験

選考方法	アドミッションポリシーに基づき、口述試験及び書類審査により総合的に合否を判定します。
試験日	2027年 2月15日(月)
試験時間	[集 合] 12:30（試験当日は、集合時間までに本学入試広報課へお越しください） [口述試験] 13:00～
試験科目	[口述試験] 主要研究業績及び入学後の研究計画に関する口頭試問を行います。 ※外国籍の方も日本語で行います。

試験場

北海道科学大学（札幌市手稲区前田7条15丁目4-1）

合格発表

2027年 3月 3日(水)

合格発表は、次の方法で行います。

- ア 本学 HP：合格発表日の10時に本学 HP で合格者の受験番号が確認できます。
- イ 文書通知：出願時に登録した住所宛に選考結果通知書を郵送します（合格発表日当日に本学より簡易書留で発送）。
合格者には入学手続のご案内をします。

入学手続期間

下記期間内に専用の web フォームより所定の手続きを行い、「入学金」・「授業料・その他の経費」を金融機関の窓口から納入してください。

システム登録	入学金	授業料・その他の経費
2027年 3月 3日(水)～ 3月10日(水)		

※詳細は、選考結果通知書に同封する「入学手続案内」を確認してください。

※一旦納入された入学金は返還いたしません。

入学辞退

入学手続完了後、入学を辞退する場合は、速やかに本学入試広報課へ連絡し、所定の手続きを行ってください。「入学金を除く授業料・その他の経費」の返還に係る連絡期限は、2027年 3月31日(水)17:00（厳守）となります。

入学金及び授業料・その他の経費

2027年度入学生 入学金及び授業料・その他の経費

修士課程

●初年度

(単位：円)

1年次		工学研究科	保健医療学研究科	
		機械工学専攻 電気電子工学専攻 情報工学専攻 建築学専攻 都市環境学専攻	看護学専攻 リハビリテーション科学専攻 医療技術学専攻	
前期分	入学金 ^{※1}	200,000	200,000	
	授業料	380,000	400,000	
	計	580,000	600,000	
	その他の経費 ^{※2}	協学会費	6,000	6,000
		学生医療互助会費	4,300	4,300
		親交会費	3,000	3,000
		同窓会費	40,000	40,000
計	53,300	53,300		
小計(入学手続時)	633,300	653,300		
後期分	授業料	380,000	400,000	
合計(年額)		1,013,300	1,053,300	

●次年度

(単位：円)

2年次以降		工学研究科	保健医療学研究科	
		機械工学専攻 電気電子工学専攻 情報工学専攻 建築学専攻 都市環境学専攻	看護学専攻 リハビリテーション科学専攻 医療技術学専攻	
前期分	授業料	380,000	400,000	
	その他の経費 ^{※2}	協学会費	3,000	3,000
		学生医療互助会費	3,800	3,800
		親交会費	3,000	3,000
		計	9,800	9,800
小計	389,800	409,800		
後期分	授業料	380,000	400,000	
合計(年額)		769,800	809,800	

博士後期課程

●初年度

(単位：円)

1年次		工学研究科	保健医療学研究科	
		工学専攻	保健医療学専攻	
前期分	入学金 ^{※1}	200,000	200,000	
	授業料	380,000	400,000	
	計	580,000	600,000	
	その他の経費 ^{※2}	協学会費	6,000	6,000
		学生医療互助会費	4,300	4,300
		親交会費	3,000	3,000
		同窓会費	40,000	40,000
計	53,300	53,300		
小計(入学手続時)	633,300	653,300		
後期分	授業料	380,000	400,000	
合計(年額)		1,013,300	1,053,300	

●次年度

(単位：円)

2年次以降		工学研究科	保健医療学研究科	
		工学専攻	保健医療学専攻	
前期分	授業料	380,000	400,000	
	その他の経費 ^{※2}	協学会費	3,000	3,000
		学生医療互助会費	3,800	3,800
		親交会費	3,000	3,000
		計	9,800	9,800
小計	389,800	409,800		
後期分	授業料	380,000	400,000	
合計(年額)		769,800	809,800	

博士課程

●初年度

(単位：円)

1年次		薬学研究科	
		薬学専攻	
前期分	入学金 ^{※1}	200,000	
	授業料	420,000	
	計	620,000	
	その他の経費 ^{※2}	協学会費	6,000
		学生医療互助会費	4,300
		親交会費	3,000
		同窓会費	40,000
計	53,300		
小計(入学手続時)	673,300		
後期分	授業料	420,000	
小計		420,000	
合計(年額)		1,093,300	

●次年度

(単位：円)

2年次以降		薬学研究科	
		薬学専攻	
前期分	授業料	420,000	
	その他の経費 ^{※2}	協学会費	3,000
		学生医療互助会費	3,800
		親交会費	3,000
		計	9,800
小計	429,800		
後期分	授業料	420,000	
小計		420,000	
合計(年額)		849,800	

※1 入学金の免除については、本書23ページを参照してください。

※2 その他の経費は、変更となる場合があります。

・初年度後期分の納入期限は9月30日です。

次年度以降の納入期限は前期分が4月30日、後期分が9月30日です。

長期履修申請をした場合の授業料

工学研究科 修士課程

区分	授業料 (年額)				修了までの 授業料総額
標準修業年限2年	1年目		2年目		1,520,000円
	760,000円		760,000円		
長期履修期間3年の場合	1年目	2年目		3年目	
	507,000円	507,000円		506,000円	
長期履修期間4年の場合	1年目	2年目	3年目	4年目	
	380,000円	380,000円	380,000円	380,000円	
長期履修期間4→3年へ短縮 (2年次の所定期日までに申請)	1年目		2年目	3年目	
	380,000円		380,000円	760,000円	

工学研究科 博士後期課程

区分	授業料 (年額)					修了までの 授業料総額
標準修業年限3年	1年目		2年目		3年目	2,280,000円
	760,000円		760,000円		760,000円	
長期履修期間4年の場合	1年目	2年目		3年目	4年目	
	570,000円	570,000円		570,000円	570,000円	
長期履修期間5年の場合	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
	456,000円	456,000円	456,000円	456,000円	456,000円	
長期履修期間5→4年へ短縮 (3年次の所定期日までに申請)	1年目		2年目	3年目	4年目	
	456,000円		456,000円	456,000円	912,000円	

保健医療学研究科 修士課程

区分	授業料 (年額)				修了までの 授業料総額
標準修業年限2年	1年目		2年目		1,600,000円
	800,000円		800,000円		
長期履修期間3年の場合	1年目	2年目		3年目	
	534,000円	534,000円		532,000円	
長期履修期間4年の場合	1年目	2年目	3年目	4年目	
	400,000円	400,000円	400,000円	400,000円	
長期履修期間4→3年へ短縮 (2年次の所定期日までに申請)	1年目		2年目	3年目	
	400,000円		400,000円	800,000円	

保健医療学研究科 博士後期課程

区分	授業料 (年額)					修了までの 授業料総額
標準修業年限3年	1年目		2年目		3年目	2,400,000円
	800,000円		800,000円		800,000円	
長期履修期間4年の場合	1年目	2年目		3年目	4年目	
	600,000円	600,000円		600,000円	600,000円	
長期履修期間5年の場合	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
	480,000円	480,000円	480,000円	480,000円	480,000円	
長期履修期間5→4年へ短縮 (3年次の所定期日までに申請)	1年目		2年目	3年目	4年目	
	480,000円		480,000円	480,000円	960,000円	

薬学研究科 博士課程

区分	授業料 (年額)						修了までの 授業料総額
標準修業年限4年	1年目		2年目		3年目	4年目	3,360,000円
	840,000円		840,000円		840,000円	840,000円	
長期履修期間5年の場合	1年目	2年目		3年目	4年目	5年目	
	672,000円	672,000円		672,000円	672,000円	672,000円	
長期履修期間5→6年へ延長 (3年次の所定期日までに申請)	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	
	672,000円	672,000円	672,000円	448,000円	448,000円	448,000円	
長期履修期間6年の場合	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	
	560,000円	560,000円	560,000円	560,000円	560,000円	560,000円	
長期履修期間6→5年へ短縮 (3年次の所定期日までに申請)	1年目		2年目	3年目	4年目	5年目	
	560,000円		560,000円	560,000円	840,000円	840,000円	

その他の経費について

1 協学会費

項目	修士・博士	備考
入会金	3,000円	本学卒業・修了生は免除(継続進学した場合)
年会費	3,000円	
計	6,000円	

2 学生医療互助会費

項目	修士・博士	備考
入会金	500円	本学卒業・修了生は免除(継続進学した場合)
年会費	3,800円	
計	4,300円	

3 親交会費

項目	修士・博士	備考
年会費	3,000円	外国人留学生は免除

4 同窓会費

項目	修士・博士	備考
会費	40,000円	<他大学出身の方> ・入学時納入 <本学出身の方> ・加入済みの方は、納入の必要はありません。

協学会

協学会は、「学生と教職員は運命協同体」の理念のもとに全学生・教職員で組織されています。その事業は多岐にわたり、主として学生生活の活性化のために、大学祭・体育祭などの活動やクラブ活動の支援を行っています。

学生医療互助会

学生医療互助会は、学生の互助救済・健康の保持増進を目的とする本学独自の制度です。学内外・時間を問わず、疾病や不慮の事故などで医療機関にかかった場合の自己負担医療費や見舞金の給付を行っています。

親交会

親交会は、在学生父母等で構成される組織で、家庭と大学が協調することにより、教育の効果を高めることを目的としています。教育懇談会の開催、大学行事への助成、学生食堂の定食割引助成などを行っています。会費は、年額3,000円です。

同窓会

同窓会は、会員相互の親睦を図るとともに母校の発展に寄与することを目的とした組織で、在学生も準会員として活動しています。卒業生の交流に関する活動以外にも、学生活動への支援や在学中の活躍に対する表彰を行っています。在学中及び卒業後の同窓会事業を通じてのサービス提供のため、会費として40,000円を入学時に一括で納入していただきます。

大学院奨学金について

学力・人物ともに優秀で、さらに学業の向上を目指している本大学院の在籍者から、指導教員の推薦に基づき学業成績又は大学院入学試験の成績順位によって判定・選考します。

なお、採用された学生には授業料(年額)の二分の一を奨学金として、前期及び後期の2回に分けて給付します。採用期間は採用された年度から修了、又は、退学等により学籍を失うまでです。

・採用人数

- (1) 工学研究科修士課程：各専攻各学年2名以内
- (2) 保健医療学研究科修士課程：各専攻各学年2名以内
- (3) 工学研究科博士後期課程：各学年6名以内
- (4) 薬学研究科博士課程：各学年3名以内
- (5) 保健医療学研究科博士後期課程：各学年3名以内
- (6) その他、学長が認めた者

大学院修士課程段階における「授業料後払い」制度について

○制度の概要

経済的事由から大学院進学を断念することを防ぐため、在学中は授業料を納付せず、修了後の所得に応じて後払いする制度です。授業料は、日本学生支援機構から大学に直接振り込まれ、対象者の授業料に充当されます。

○制度対象者

対象者は以下の(1)~(4)を全て満たす者となります。

- (1) 令和7年度以降に国内の大学院修士課程(博士前期課程及び専門職学位課程を含む)に進学した者。
- (2) 本人の希望に基づき、在学を申請して申請を行った者。
- (3) 日本学生支援機構の修士段階を対象とした第一種奨学金と同様の家計基準及び学業成績基準を満たす者。
- (4) 過去に貸与を受けた奨学金の返還が延滞中である等、第一種奨学金の貸与を受けられない事由がない者。

○申請方法

以下の書類を提出

「授業料後払い制度」希望申請書(兼 授業料納付猶予申請書)

本学 HP から様式をダウンロードしてください。

○提出先

〒006-8585

北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4-1

北海道科学大学 入試広報課(フリーダイヤル:0120-248-059)

入学金免除について

下記のいずれかに該当する場合は、入学金が免除となります。

- (1) 北海道科学大学高等学校の卒業生が、北海道科学大学に入学する場合。
- (2) *対象校の卒業（修了）生及び退学者が、北海道科学大学に入学する場合。
- (3) *対象校のいずれかを卒業（修了）した同窓生の子女が、北海道科学大学に入学する場合。

該当される方は、出願書類とともに出願期間内に「入学金免除申請書」の提出が必要となります。学校法人北海道科学大学ホームページ (<https://ed.hus.ac.jp/>) へアクセスのうえ、「入学金免除申請書」をダウンロードし、印刷してください。「入学金免除申請書」に必要事項を記入のうえ、出願書類に同封してください。ホームページからの印刷が難しい場合、本学入試広報課（0120-248-059）までお問い合わせください。

なお、入学手続時には志願者との続柄を証明できる書類（戸籍謄本）を提出する必要があります。

※ (2) (3)

対象校について、入学金免除の対象となるものは次のとおりです。

- 北海道科学大学（旧北海道工業大学、旧北海道薬科大学）
- 北海道科学大学短期大学部（旧北海道自動車短期大学）
- 北海道総合電子専門学校（旧北海道電波専門学校）

※ (3)

同窓生子女については、両親（父・母）のいずれかが卒業（修了）生の場合に適用されます。

教育訓練給付制度（一般教育訓練）について

保健医療学研究科の看護学専攻・リハビリテーション科学専攻・医療技術学専攻は、教育訓練給付制度の対象講座として指定されています。

詳細については、本学 HP (<https://www.hus.ac.jp/entrance/exam/master/>) をご確認ください。

また、本制度の対象者・申請方法などの詳細については、厚生労働省のホームページにてご確認ください。

出願資格の事前審査について

「出願資格」において事前審査を必要とする者は、願書を受理する前に出願資格に関する事前審査を行いますので、申込期日までに事前審査申込を行ってください。事前審査申込書等（所定様式）は本学 HP より、ダウンロードしてください。

なお、出願資格の事前審査申込において、検定料は必要としません。

出願が認められた者は、速やかに検定料を納付し、出願書類一式を出願期間内に提出してください。事前申請申込の際に提出済の書類は出願時に再提出不要です。

出願期間内に書類一式の提出がない場合には、出願の意志がないものと判断します。

出願上の留意事項

出願者は、出願前に指導教員予定者と研究テーマ等について事前に相談し、確認を行ってください。

出願書類に不備がある場合は、受け付けできません。

研究計画書は、本学所定様式に入力または手書きで作成してください。（A4判、横書き、1行40字詰め、1,600字以内）

出願書類受理後は記載事項を変更できません。住所等に変更がある場合は本学入試広報課へ連絡してください。

提出された出願書類及び入学検定料は、返還できません。

試験日の3日前までに受験票が届かない場合は、本学入試広報課（0120-248-059）へお問い合わせください。

入学許可後であっても、出願書類の記載事項と事実が相違していることが判明した場合には、入学を取り消すことがあります。

2027年3月までに所定の要件を満たす見込みで受験し合格した者が、所定の要件を満たすことができなかった場合は合格を取り消します。

本学の入学に際し、日本に在住する身元保証人が必要となります。

個人情報の取り扱いについて

- 1 本学が保有する個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「北海道科学大学個人情報保護規程」に基づき、保護に万全を期しています。
- 2 出願にあたってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続、④入学者選抜方法等における調査・研究、⑤これらに付随する業務を行うために利用します。
- 3 入学者選抜に用いた試験成績の個人情報は、入学者選抜方法等における調査・研究を行うために利用します。
- 4 各種業務での利用にあたっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下、「受託業者」という。）において行うことがあります。業務委託にあたり、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、お知らせいただいた個人情報の全部あるいは一部が提供されます。
- 5 出願にあたってお知らせいただいた個人情報は、合格者のみ入学後の①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、奨学金申請等）、③授業料等に関する業務を行うために利用します。

志願票等の記入要領

工学研究科・保健医療学研究科
修士課程・博士後期課程

☆
志願票以外の出願書類（本学所定様式）は本学HPより、ご自身でダウンロードしてください。

記入上の注意

- 黒の油性ボールペンで、志願者本人が記入してください。
- 出願書類受理後は記載事項を変更することができませんので、十分に確認してから出願してください。
- 履歴欄も必ず記入してください。

志望専攻名を記入し、課程・試験区分の枠内に✓印をつけてください（期別は、修士課程〈一般・社会人〉の出願者のみ記入してください）。

入学検定料の振り込み及び出願についての注意

- 入学検定料の振り込みが完了するまで、㉠・㉡・㉢・㉣は切り離さないでください。（銀行等の窓口へは、このままで提出してください）
- 振り込み完了後、取扱銀行等の出納印が㉠、㉢に押されていることを確認してください。（㉠に出納印が押されていない志願票は受理できません）
- 振込金兼手数料受取書（㉣）は、入学検定料の領収書となります。切り離して大切に保管してください。

(表面)

修士課程一般入試で出願する方は、本書9ページを参照し、選択する科目名を記入してください。

指導教員予定者名を記入してください。（本学の在学生は、所属ゼミの担当教員名も記入してください。）
※事前に指導教員予定者と確認を行ってください。（指導教員は、各専攻の概要ページ内「教授陣容と主要担当科目」欄でご確認ください。）

志願者本人に、最も確実に連絡できる住所、電話番号を記入してください（アパートや下宿の場合、その名称・部屋番号も記入してください）。

メールアドレスを必ず記入してください。

現在、企業等に勤務している場合は、勤務先の住所及び名称、電話番号を記入してください。

入学金免除に関する確認欄については、本書23ページを参照のうえ該当する場合に○印を記入し、「入学金免除申請書」を同封してください。

入学検定料を納入した銀行等の出納印が3か所押されていることを確認してください（出納印が押されていない場合は、出願を受理できません）。

2027年度 北海道科学大学 大学院入学試験
志願票

受験番号 ※記入不可

課程	志望専攻名	試験区分	期別
<input checked="" type="checkbox"/> 修士	建築	<input type="checkbox"/> 推薦 <input type="checkbox"/> 社会人	<input checked="" type="checkbox"/> 前期
<input type="checkbox"/> 博士		<input checked="" type="checkbox"/> 一般	<input type="checkbox"/> 後期

指導教員予定者名-所属ゼミの担当教員名 大学使用 ※記入不可 選択科目 (※修士・一般のみ記入・募集要項P9参照)

指導教員予定者名 (指導教員予定者名)	指導教員出願承諾確認欄	1	建築設計
(所属ゼミの担当教員名) 本学在学生のみ記入		2	建築生産

写真
●正面・上半身・脱帽で背景のないもの
●最近3か月以内に撮影したもの
●タテ4cm・ヨコ3cm (大きさ厳守)

フリガナ カ ガク ヒロシ 性別 男・女 生年月日(西暦) 2004年10月03日

氏名 科学大

最終学歴
大学 北海道科学大学 工学部 建築学科 国立 27年03月
大学院 私立
その他 26年03月

本人現住所 (選考結果通知送付先)
〒060-0031 札幌市中央区北1条東2丁目3-4
自宅電話 (011) 234 5678 携帯電話 (090) 1234 5678

メールアドレス ●●●●●●@●●●●●●

勤務先住所 ※有職者のみ記入
会社名 電話 ()

長期履修申請に関する確認欄 (社会人入試のみ)
※申請する場合○をつけ、P58を参照し、必要書類を同封してください。

入学金免除に関する確認欄
※該当する場合○をつけ、P23を参照し、「入学金免除申請書」を同封してください。

■裏面(履歴)もご記入ください。

2027年度 北海道科学大学 大学院入学試験
受験票

受験番号 ※記入不可

〒060-0031 札幌市中央区北1条東2丁目3-4
科学大様

課程 修士 試験区分 一般 社会人 期別 前期 後期

志望専攻名 建築 学専攻

選択科目 (※修士・一般のみ記入)
1 建築設計
2 建築生産

フリガナ カ ガク ヒロシ 性別 男・女 生年月日(西暦) 2004年10月03日

氏名 科学大

- 志願者へのお願い
1. 入学検定料の振り込みが完了するまで、本書は切り離さないでください。
 2. 銀行から㉠・㉡・㉢を受け取ってください。
 3. ㉠・㉢とともに「取扱銀行出納印」が押印されているか確認してください。
 4. ㉠・㉢は、他の出願書類とともに大学に提出してください。
 5. ㉣は、入学検定料の領収書となります。切り離して大切に保管してください。

2027年度 北海道科学大学 大学院入学試験
振込金兼手数料受取書 (本人保管)

依頼日 2026年6月3日

手数料 金額 3000円

振込先 北洋銀行手稲中央支店 口座番号 4265355

受取人 学) 北海道科学大学収納口

依頼人 (志願者) 科学大

左記の通り入学検定料として受け取りました。(受付銀行)

取扱銀行出納印 2

2027年度 北海道科学大学 大学院入学試験
電信振込依頼書

依頼日 2026年6月3日 振込先 北洋銀行手稲中央支店 金額 3000円

入金種別 普通預金 口座番号 4265355

受取人 学) 北海道科学大学収納口

依頼人 (志願者) 科学大

住所 札幌市中央区北1条東2丁目3-4 TEL(011)234 5678

取扱金融機関へのお願い

1. 本枠内を打電してください。依頼人名は、入試区分のDを頭部につけてください。
2. 出納印は、㉠・㉡・㉢か所に押印し、㉣以外を依頼人にお返しください。
3. 北洋銀行本支店からの振り込みについては、振込手数料を110円(税込)にてお取り扱います。また、他銀行からの振り込みについては、所定の手数料にてお取り扱いください。

速達料金を含む切手を2枚以内で貼付してください。

志願者本人の住所(受験票の送付先)及び氏名を記入してください。

写真は、剥がれないようしっかり貼付してください(写真裏面に、志望する専攻名・氏名を記入してください)。

入学検定料の領収書となりますので、ご自身で大切に保管してください。

手数料は記入しないでください。

志願者本人の氏名、住所、電話番号を正確に記入してください。

志願票等の記入要領

薬学研究科 博士課程

☆ 志願票以外の出願書類（本学所定様式）は本学HPより、ご自身でダウンロードしてください。

記入上の注意

- 黒の油性ボールペンで、志願者本人が記入してください。
- 出願書類受理後は記載事項を変更することができませんので、十分に確認してから出願してください。
- 履歴欄も必ず記入してください。

指導教員予定者名を記入してください。（本学の在学学生は、所属ゼミの担当教員名も記入してください。）
※事前に指導教員予定者と確認を行ってください。（指導教員は、各専攻の概要ページ内「教授陣容と主要担当科目」欄でご確認ください。）

志願者本人に、最も確実に連絡できる住所、電話番号を記入してください（アパートや下宿の場合、その名称・部屋番号も記入してください）。

メールアドレスを必ず記入してください。

現在、企業等に勤務している場合は、勤務先の住所及び名称、電話番号を記入してください。

入学金免除に関する確認欄については、本書23ページを参照のうえ該当する場合に○印を記入し、「入学金免除申請書」を同封してください。

入学検定料を納入した銀行等の出納印が3か所押されていることを確認してください（出納印が押されていない場合は、出願を受理できません）。

(表面)

2027年度 北海道科学大学 大学院入学試験
志願票

受験番号 ※記入不可

試験区分 前期 後期 一般 社会人

志望専攻 薬学研究科 博士課程 薬学専攻

指導教員予定者名・所属ゼミの担当教員名 大学使用 ※記入不可

写真
●正面・上半身・脱帽で背景のないもの
●最近3か月以内に撮影したもの
●タテ4cm・ヨコ3cm（大きき厳守）

フリガナ (姓) カガク (名) ヒロシ 大 性別 男 女 生年月日(西暦) 2002年10月03日

氏名 (姓) カガク (名) ヒロシ 大

最終学歴 大学 北海道科学大学 薬学部 薬学科 国立 卒業(見込)年 27年03月
大学院 (大学院名) (研究科・課程・専攻名) 私立
その他 (学校名) (学科・専攻・コース名) 公立 26年03月

本人現住所 (選考結果通知送付先) 〒060-0031 札幌市中央区北1条東2丁目3-4
自宅電話 (011) 234 5678 携帯電話 (090) 1234 5678

メールアドレス ●●●●●●@●●●●●●

勤務先住所 ※有職者のみ記入
会社名 電話 ()

長期履修申請に関する確認欄 (社会人入試のみ) ※申請する場合○をつけ、P58を参照し、必要書類を同封してください。

入学金免除に関する確認欄 ※該当する場合○をつけ、P23を参照し、「入学金免除申請書」を同封してください。

■裏面(履歴)もご記入ください。

試験区分の枠内に✓印をつけてください。

入学検定料の振り込み及び出願についての注意

- 入学検定料の振り込みが完了するまで、㉠・㉢・㉣・㉤は切り離さないでください。（銀行等の窓口へは、このままで提出してください）
- 振り込み完了後、取扱銀行等の出納印が㉠、㉣に押されていることを確認してください。（㉠に出納印が押されていない志願票は受理できません）
- 振込金兼手数料受取書（㉣）は、入学検定料の領収書となります。切り離して大切に保管してください。

2027年度 北海道科学大学 大学院入学試験
受験票

受験番号 ※記入不可

試験区分 前期 後期 一般 社会人

志望専攻 薬学研究科 博士課程 薬学専攻

フリガナ (姓) カガク (名) ヒロシ 大

氏名 (姓) カガク (名) ヒロシ 大

速達料金を含む切手を2枚以内で貼付してください。

志願者本人の住所（受験票の送付先）及び氏名を記入してください。

写真は、剥がれないようしっかり貼付してください（写真裏面に、志望する専攻名・氏名を記入してください）。

入学検定料の領収書となりますので、ご自身で大切に保管してください。

手数料は記入しないでください。

志願者本人の氏名、住所、電話番号を正確に記入してください。

2027年度 北海道科学大学 大学院入学試験
振込金兼手数料受取書 (本人保管)

依頼日 2026年10月15日

手数料 3000円

金額 3000円

振込先 北洋銀行手稲中央支店 普通 4265355

受取人 学) 北海道科学大学収納口

依頼人 (志願者) 科学大

2027年度 北海道科学大学 大学院入学試験
電信振込依頼書

依頼日 2026年10月15日

振込先 北洋銀行手稲中央支店

金額 3000円

入金種目 普通預金 口座番号 4265355

受取人 学) 北海道科学大学収納口

依頼人 (志願者) 科学大

住所 札幌市中央区北1条東2丁目3-4 TEL(011)234 5678

工学研究科・保健医療学研究科
修士課程・博士後期課程（裏面）

◆試験日時

■修士課程

推薦	2026年 7月3日(金) ^{#1} 2026年11月5日(木) ^{#2} 面接試験 10:00~
一般	2026年 7月3日(金) ^{#1} 2026年11月5日(木) ^{#2} 外国語 10:30~11:30 専門科目 13:00~15:00 面接試験 15:30~
前	2026年 7月3日(金) ^{#1} 2026年11月5日(木) ^{#2} 小論文 10:30~11:30 口述試験 13:00~
後	2027年2月15日(月) 外国語 10:30~11:30 専門科目 13:00~15:00 面接試験 15:30~
社会人	2027年2月15日(月) 小論文 10:30~11:30 口述試験 13:00~

◆受験上の注意

- この受験票を必ず持参してください。試験室では受験票を机上に提示してください。
- 試験当日は、試験開始30分前までに入試広報課へお越しください。
- 体調に十分留意し、不安がある場合は入試広報課まで速やかに連絡してください。

※1 工学研究科
※2 保健医療学研究科

差出人 北海道科学大学 入試広報課 〒006 8585 札幌市手稲区新田7番15丁目4-1
TEL0120 248 059 FAX011 688 2392

履 歴	
学 歴	西暦 2023年 3月 北海道〇〇〇 高等学校 卒業
	2023年 4月 北海道科学大学工学部入学
	2027年 3月 北海道科学大学工学部卒業見込み
取得資格	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
職 歴	年 月～ 年 月
	年 月～ 年 月
	年 月～ 年 月
	年 月～ 年 月
	年 月～ 年 月
	年 月～ 年 月

- ◆記入上の注意
- 学歴は、高等学校または高等専門学校卒業から記入してください。
 - 取得した資格の名称は略さないで記入してください。
 - 職歴は、正規職員として在職したものを記入してください。また、大学等で研究生としての在学歴がある場合は、本欄に記入してください。

薬学研究科 博士課程（裏面）

◆試験日時

■薬学研究科 博士課程

一般前期	2026年7月 3日(金) 小論文 10:30~11:30 面接試験 13:00~
一般後期	2027年2月15日(月) 小論文 10:30~11:30 面接試験 13:00~

◆受験上の注意

- この受験票を必ず持参してください。試験室では受験票を机上に提示してください。
- 試験当日は、試験開始30分前までに入試広報課へお越しください。
- 体調に十分留意し、不安がある場合は入試広報課まで速やかに連絡してください。

差出人 北海道科学大学 入試広報課 〒006 8585 札幌市手稲区新田7番15丁目4-1
TEL0120 248 059 FAX011 688 2392

履 歴	
学 歴	西暦 2021年 3月 北海道〇〇〇 高等学校 卒業
	2021年 4月 北海道科学大学薬学部入学
	2027年 3月 北海道科学大学薬学部卒業見込み
取得資格	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	2027年 3月 薬剤師免許取得見込み
	年 月
職 歴	年 月～ 年 月
	年 月～ 年 月
	年 月～ 年 月
	年 月～ 年 月
	年 月～ 年 月
	年 月～ 年 月

- ◆記入上の注意
- 学歴は、高等学校または高等専門学校卒業から記入してください。
 - 取得した資格の名称は略さないで記入してください。
 - 職歴は、正規職員として在職したものを記入してください。また、大学等で研究生としての在学歴がある場合は、本欄に記入してください。
 - 取得資格欄に薬剤師免許取得（見込）年月を記入してください。

各専攻の概要

<工学研究科>

修士課程

機械工学専攻	P. 32
電気電子工学専攻	P. 34
情報工学専攻	P. 36
建築学専攻	P. 38
都市環境学専攻	P. 40

博士後期課程

工学専攻	P. 42
------------	-------

<薬学研究科>

博士課程

薬学専攻	P. 44
------------	-------

<保健医療学研究科>

修士課程

看護学専攻	P. 48
リハビリテーション科学専攻	P. 50
医療技術学専攻	P. 52

博士後期課程

保健医療学専攻	P. 54
---------------	-------

グローバルな視野でメカの先端技術者を育成

21世紀には、メカトロニクス、新エネルギー、バイオテクノロジー、新素材など多方面にわたる新しい分野が、産業や経済の基盤としてますます重要になります。このような新しい技術分野への取り組みには、時代の流れを鋭敏に感じとり、社会のニーズに応える豊かな感性と知性のエネルギーが必要です。

以上のことを視野に入れて、本専攻では、機械工学・機械工業の基礎分野から新分野に至る広範な研究領域を包含し、高い教育研究水準を目指しています。大学院の学生には、学士課程で身につけた知識を深めるのみならず、新しい時代への流れに対応できる知的柔軟性、目標を達成できる能力、さらには目標を設定できる能力を身につけるように、教授陣による個別の指導を行います。

熱流体・エネルギー分野

熱工学及び流体工学は、種々の機械設計や解析、環境問題や自然現象を論ずる際にも不可欠な学問分野です。本分野では、様々な再生可能エネルギー・省エネルギー・寒地環境技術に関わる熱流体工学の諸問題に関する基礎研究ならびに応用研究を行っています。

主要研究テーマ 熱エネルギー変換効率向上に関わる技術開発/流体エネルギーの利用と制御/ターボ機械翼列への着氷現象の解明と制御/プラズマアクチュエータを用いた流体制御

加工・モビリティ分野

これからの産業技術やモビリティの発展には素材に付加価値を与える材料加工及び応用技術の開発が重要な課題となっています。本分野では、ナノスケールの微細加工を含む材料加工法の基礎研究やGX（グリーントランスフォーメーション）の発展に資する研究を行っています。

主要研究テーマ ナノインプリントプリント法を用いた超微細配線の創製/異種材料複合化技術の開発/金属材料の切削過程における物理的現象の解明/ナノ触媒を用いた新水素エネルギーの開発/BDF（バイオ・ディーゼル・フューエル）の混合割合が微粒子生成機構におよぼす影響

ロボティクス・メカトロ分野

ロボットや生産機械においては、力学モデルの構築と安全な動作を保証する動作システムの設計とその制御手法の開発が強く求められています。本分野ではロボットや生産機械の制御に必要な理論や学習・推論・判断など人間の知能を代替するAIの技術を用いながら、安全で、人体にとって快適なロボットシステムやメカトロニクス及び動特性に関する基礎研究、それらを支える数値計算技術や計測技術に関する応用研究を行っています。

主要研究テーマ 移動体の非線形フィードバック制御に関する研究/柔軟および多関節ロボットの運動制御に関する研究/生体信号を用いた制御手法に関する研究/車両用アクティビティシートサスペンションを用いた振動制御に関する研究/新しい音源探査手法の開発/1次元CAE手法に関する研究/下肢装具のステータ材のCFRTP材を用いた軽量化に関する研究/Python言語を用いた機械構造最適化システムの構築に関する研究

材料工学・材料科学分野

材料はあらゆる機器・構造物の根幹であり、先端技術にはそれを支える新素材の開発やそれを生み出すプロセス技術・応用技術が必ず存在します。日本発の多くの素材が世界を牽引しており、SDGsを考える際においても極めて重要な分野です。本分野では、最先端の情報技術や装置を駆使しながら、学内外の機関とも協働で豊かな社会を実現するための新素材の開発に向けた様々な基礎研究ならびに応用研究を行っています。

主要研究テーマ 新規ミルフィューユ材料の探求/MI（マテリアルズ・インフォマティクス）を活用した材料開発/医工連携による寒冷地の装具使用者の安全・安心確保/次世代型超高温コーティングシステムの創製/次世代溶接技術を用いたステンレス鋼溶接部の組織形態と機械的性質/次世代の溶接人材向けステップアップ型技能支援手法に関する研究



教授陣容と主要担当科目 (2027年度予定)

見山 克己 教授・博士 (工学)

半導体パッケージ工学特論

複合加工学特論

齋藤 繁 教授・博士 (工学)

材料工学特論

堀内 寿晃 教授・博士 (工学)

材料力学特論

浪花 啓右 准教授・博士 (工学)

メカトロニクス特論

太田 佳樹 教授・工学博士

CAE 特論

振動工学特論

大竹 秀雄 教授・博士 (工学)

熱工学特論

北川 浩史 准教授・博士 (工学)

エンジンシステム特論

燃焼工学特論

久保 徳嗣 准教授・博士 (工学)

流体工学特論

高島 昭彦 准教授・博士 (工学)

制御工学特論

長松 昌男 准教授・博士 (工学)

機械力学特論

工業力学特論

平元 理峰 准教授・博士 (工学)

流体工学特論

数値流体工学特論

池田 圭吾 講師・博士 (工学)

吉田 協 講師・博士 (工学)

複合加工学特論

機械工学特論ゼミナール

(○は研究指導教員)

○見山 克己・○齋藤 繁・

○堀内 寿晃・○浪花 啓右・

太田 佳樹・大竹 秀雄・

北川 浩史・久保 徳嗣・

高島 昭彦・長松 昌男・

平元 理峰・池田 圭吾・

吉田 協

CURRICULUM

カリキュラム

1年次	2年次
半導体パッケージ工学特論	選択
熱工学特論	選択
流体工学特論	選択
エンジンシステム特論	選択
材料力学特論	選択
CAE 特論	選択
機械力学特論	選択
メカトロニクス特論	選択
制御工学特論	選択
材料工学特論	選択
複合加工学特論	選択
工業力学特論	選択
工業数学特論	選択
物理学特論	選択
機械工学特別演習	必修
機械工学特論ゼミナール	必修

※担当教員及びカリキュラム等は変更となる場合があります。

社会と産業を発展させるエネルギーとエレクトロニクス

高度に発展した現代社会を支えているのが電気エネルギーと種々のエレクトロニクス応用機器であり、その学問分野は電気工学と電子工学です。電気エネルギー（電気工学）は、社会を支える基盤エネルギー（基盤工学）として位置づけられますが、化石燃料の限界が見込まれ、東日本大震災（2011.3.11）により原子力発電の危険性が再認識される中でも、火力・水力発電や新エネルギーの太陽光・風力発電などで人々に電力を供給しつづける必要があります。また急速に開発が進む電気自動車用蓄電池の開発とも関連するなど、人々の日常生活と直結する普遍的な学問分野です。一方、今日のあらゆる電気電子情報機器に欠かせない半導体は、その源流を遡ると真空管に至りますが、この電子回路（電子工学＝エレクトロニクス）の分野はその後、IC、LSI、超LSIという流れで発展し、現在ではその副産物の代表的なものとしてパーソナルコンピュータ（PC）に至り、今や世界的な通信網であるインターネットを介して、企業、家庭、個人がその所在にかかわらずPCを利用して情報を交換しています。また、この分野の発展で登場したエレクトロニクス応用機器は、我が国の2大産業である電気電子機器製造分野と自動車製造分野（エンジン制御、制動、オートクルーズ、カーナビなど、高度な電子機器や制御用コンピュータを多数搭載）に直接的な関連を持ち、その技術水準は世界のトップに位置づけられます。さらに、MRI、X線CT、超音波診断装置などの高度な医療機器は、電気工学と電子工学の最先端技術の集大成で実現しており、医療分野への貢献度も測り知れません。

このように、電気工学及び電子工学分野における先端的かつ独創的な研究開発の必要性は、我が国の産業界が国際競争力を維持・向上させるために今後ますます増大し、さらに境界的及び学際的な領域の開拓、関連領域の協力などによって多大な成果が期待されます。

本専攻では、電気工学及び電子工学の最新分野について技術的及び理論的両面から教育研究を進め、次世代の先端的・長期的テーマに挑戦し、関連分野の学問的資産と英知を結集し、より豊かな社会を実現するための最先端の技術開発をめざすなかで、高度な専門的業務に従事し得る技術者及び研究者を育成します。育成目標は関連分野での創造性と豊かな人間性を兼ね備えた人物としており、各研究室での最新の研究テーマへの挑戦による創造性の追求、及び親密なグループ研究と率直な研究活動を通じた人間性の醸成を基本方針にしています。また、電気電子工学の分野は広範囲な学問領域で形成されているため、学生諸君が体系的に専門知識を修得したり、関連する教員や学生同士で十分な討論ができるように、教育研究の領域（専門分野）を大きく以下の四つの系にまとめています。

エレクトロニクス系

教育研究領域 生体電子工学、電気電子計測、画像エレクトロニクス、電子システム、電気電子センサ工学、リモートセンシング、衛星通信工学、人工知能（AI）を用いた画像認識・時系列解析と予測

主要研究テーマ 生体モデル膜を用いた感覚センサ及びセンサフュージョンによる味覚センサの研究/医療・福祉系システムの開発/雪氷センシングに関する研究/衛星通信による制御・計測に関する研究

電力エネルギー系

教育研究領域 エネルギー変換工学、電力システム工学、制御応用工学、超電導・高磁界工学

主要研究テーマ 電力システムの運用・制御/再生可能エネルギー電源の安定化/スマートコミュニティ・スマートハウスの研究

電気電子物性系

教育研究領域 電気電子物性、電子デバイス、集積化システム、薄膜応用工学、ナノエレクトロニクス

主要研究テーマ 半導体界面の特性評価とデバイスへの応用/化合物半導体物性/光誘起電流変調固体回路による高機能化素子/有機系太陽電池の開発

物理数学系

教育研究領域 固体量子論、量子統計学、応用数学

主要研究テーマ 磁性金属・合金の磁気構造の理論的研究/複雑ネットワーク系の数理的研究/超対称性理論の非摂動効果の解析



教授陣容と主要担当科目 (2027年度予定)

矢神 雅規 教授・博士 (工学)

エネルギー変換工学特論

電力システム工学特論

木村 尚仁 教授・博士 (工学)

電気電子計測特論

ナノエレクトロニクス特論

小島洋一郎 教授・博士 (工学)

画像エレクトロニクス特論

制御応用工学特論

村口 正和 教授・博士 (工学)

電子デバイス特論

薄膜応用工学特論

内田 尚志 教授・博士 (理学)

固体量子論特論

伊藤 佳卓 准教授・博士 (工学)

画像エレクトロニクス特論

電気電子センサ工学特論

折川 幸司 准教授・博士 (工学)

エネルギー変換工学特論

山口 哲 准教授・博士 (医学)

電子システム特論

増田 貴宏 教授・博士 (理学)

量子統計特論

三橋 龍一 教授・博士 (工学)

衛星通信工学特論

横山 和義 教授・博士 (理学)

応用数学特論

渡部 智希 教授・薬学士

一戸 善弘 准教授・博士 (工学)

電気電子物性特論

佐々木正巳 教授・工学博士

リモートセンシング特論

電子システム特論

電気電子工学特論ゼミナール
(○は研究指導教員)

○矢神 雅規・○木村 尚仁・
○小島洋一郎・○村口 正和・
○内田 尚志・○伊藤 佳卓・
○折川 幸司・○山口 哲・
増田 貴宏・三橋 龍一・
横山 和義・渡部 智希・
一戸 善弘・佐々木正巳

CURRICULUM

カリキュラム

1年次	2年次
半導体パッケージ工学特論	選択
電気電子計測特論	選択
画像エレクトロニクス特論	選択
衛星通信工学特論	選択
電気電子センサ工学特論	選択
リモートセンシング特論	選択
電子システム特論	選択
エネルギー変換工学特論	選択
電力システム工学特論	選択
制御応用工学特論	選択
電気電子物性特論	選択
電子デバイス特論	選択
薄膜応用工学特論	選択
ナノエレクトロニクス特論	選択
固体量子論特論	選択
量子統計特論	選択
応用数学特論	選択
電気電子工学特別実験	必修
電気電子工学特論ゼミナール	必修

※担当教員及びカリキュラム等は変更となる場合があります。

「IT分野の開拓を担う先端技術を身につける」

現在の高度情報化社会では、情報機器が至る所にあふれ、これらを繋ぐネットワークの高速化が進んでいます。また、SNS に代表されるネットワークシステムの台頭があり、そこではユーザに訴える感性やデザインの占める割合が大きなものになっています。情報技術は現代社会を支える重要な土台であり、かつダイナミックに進化を遂げている分野でもあります。

情報工学は社会の高度化・利便性向上に直接貢献する極めて重要で不可欠な学問・研究分野です。情報工学が社会の高度化に果たした役割は計り知れず、今後もその基礎研究を通して、新しいアルゴリズムの創出や機器・装置の開発、コンテンツの創造により様々な社会分野での成果が期待されています。

情報工学専攻では、わが国と北方圏における活力の持続、安心安全の確保、個人生活の充実に寄与するプロフェッショナルであり、かつ情報の生成・伝達・収集・蓄積・処理といった各分野の発展と高度な専門的業務を担うことのできる技術者及び研究者の養成を目的としています。

具体的には、日々蓄積されている多種多様なデータ群（ビッグデータ）に内在する意味や価値を見出すデータサイエンティスト、社会の高度化に整合した各種ネットワークの設計・構築・運用の知識を持つモバイルやクラウド関連の高度専門技術者、知能処理・情報処理技術の実践力を身につけたコンピュータシステム関連の高度専門技術者、社会の仕組みまで理解した深い視点を持ち、感受性豊かでかつ論理的に組み立てることができるコンテンツクリエイト関連の高度専門技術者などを育成します。

各研究室では、単に学部課程における知識獲得の延長ではなく、グループ研究やディスカッションを通して、研究テーマに対して自発的に目標を設定・達成できる力、問題解決のためのアイデアを自ら創出する力といった人間性・創造性の醸成を基本方針としています。

マルチメディアコミュニケーション分野

多様なデジタルネットワークをベースに、DX（デジタルトランスフォーメーション）とユーザ体験の進化において中核となるネットワークセキュリティ、IoT サービスシステム、音声・画像情報処理を体系的に研究しています。

主要研究テーマ ネットワークセキュリティ/IoTシステムとビッグデータ/音声・画像情報処理/ICT 応用

知能情報工学分野

コンピュータの応用範囲の拡大に伴い、さらに人間性豊かで知的な能力を有する情報システムの構築技術を体系的に研究しています。

主要研究テーマ Deep learning による知的学習と最適化/エージェントの知的協調と競合/進化型計算機による創発的行動の獲得/ロボティクス

ソフトウェア情報工学分野

コンピュータソフトウェアの巨大化・複雑化に対処するために、ソフトウェア開発技術を体系的にとらえ、膨大なデータやバーチャル技術を活用した新たなサービス展開のための基礎から実践までの研究をしています。

主要研究テーマ VR、AR、MR/シミュレーション/機械学習/データサイエンス

デザイン・コミュニケーション分野

デジタルメディアを介したコンテンツが氾濫する現在において、ユーザの視点をより重視する感性デザインに基づく、ゲームデザイン、メディアデザイン、CGデザイン、コミュニケーションデザインの技術を体系的に研究しています。

主要研究テーマ ゲームデザイン/メディアデザイン/視覚メッセージデザイン/感性と認知情報処理



教授陣容と主要担当科目 (2027年度予定)

松崎 博季 教授・博士 (工学)

メディア処理特論

感性情報工学特論

稲垣 潤 教授・博士 (工学)

情報数学特論

真田 博文 教授・博士 (工学)

情報伝送システム特論

和田 直史 教授・博士 (情報科学)

ソフトウェア情報工学特論

伊澤 毅 教授・博士 (理学)

末光 厚夫 教授・博士 (工学)

竹沢 恵 教授・博士 (工学)

デジタル情報処理特論

大江 亮介 准教授・博士 (情報科学)

知能情報工学特論

杉尾 信行 准教授・博士 (工学)

情報セキュリティ特論

鈴木 昭弘 准教授・博士 (工学)

ゲームデザイン特論

飛田 豊 准教授・博士 (理学)

数値解析特論

松川 瞬 講師・博士 (工学)

小谷 彰宏 教授・修士 (芸術)

メディアデザイン特論

趙 領逸 教授・博士 (感性科学)

イクスピアリエンスデザイン特論

渡辺 功 准教授・博士 (教育学)

視覚メッセージ・デザイン特論

荒澤 孔明 講師・博士 (工学)

松本 拓 助教・博士 (コンピュータ理工学)

小松 隆行 教授・博士 (工学)

シミュレーション特論

情報工学特論ゼミナール
(○は研究指導教員)

○松崎 博季・○稲垣 潤・
○真田 博文・○和田 直史・
伊澤 毅・末光 厚夫・
竹沢 恵・大江 亮介・
杉尾 信行・鈴木 昭弘・
飛田 豊・松川 瞬・
小谷 彰宏・趙 領逸・
渡辺 功

CURRICULUM

カリキュラム

1年次	2年次
半導体パッケージ工学特論	選択
デジタル情報処理特論	選択
情報セキュリティ特論	選択
情報伝送システム特論	選択
メディア処理特論	選択
情報数学特論	選択
数値解析特論	選択
ソフトウェア情報工学特論	選択
知能情報工学特論	選択
イクスピアリエンスデザイン特論	選択
シミュレーション特論	選択
ゲームデザイン特論	選択
感性情報工学特論	選択
視覚メッセージ・デザイン特論	選択
メディアデザイン特論	選択
情報工学特別実験	必修
情報工学特論ゼミナール	必修

※担当教員及びカリキュラム等は変更となる場合があります。

建築と都市環境の未来を切り開く専門家の育成

近年、わが国では都市の大規模化、複合化、高層化などが進展する一方で、高齢化、少子化、地方の過疎化、生活環境の悪化と地域格差の拡大などが複雑に進行しています。このような時代背景を受けて、建築学の分野では生活環境や住居・施設のあり方を総合的・包括的にとらえ、長期的な展望の中で計画的に整備・開発あるいは保全していくことが要求されています。

本専攻は、わが国と北方圏のための豊かな学識を備えた高度な建築分野の専門的職業人又は研究者の養成を目的としています。

さらに、建築分野の専門的職業人として活躍するために一級建築士取得は必要条件と考えられ、その取得に有意な建築設計等に関する業務の実務訓練と同等となる教育プログラムを設定しています。

最近の修士論文テーマの一例

主筋に機械式継手を用いた継手性能に関する研究／鉄筋コンクリート造の壁筋に用いる幅止め筋の合理化に関する研究／積雪地域における木造住宅の耐震性に関する基礎的研究／多雪区域における鋼構造骨組の構造特性に関する研究／建築物における構造部材の着雪・落雪に関する研究／重層する建築 一美幌町マルワ製麺工場の職住一体計画ー／重なり合いの間 一札幌開拓における屯田兵村形成のグリッドを用いた複合建築の提案／北海道における大手炭鉱地域における住宅街変容と地域振興手法に関する研究／市街化調整区域の違反建築物の実態と是正方策に関する基礎的研究／寒冷地における地中熱利用冷暖房空調システムの性能評価と運転の最適化に関する研究

建築構造工学を基礎として積雪寒冷地特有の建築構造及び地域防災に関する諸問題を教育・研究します。

キーワード

- 荷重外力
- 鋼構造
- 鉄筋コンクリート
- 各種接合部
- 信頼性の評価

地域における住居や各種建築施設にかかわる人間環境の総合的な計画課題を主対象として教育・研究を展開します。

キーワード

- 住居
- 住宅地計画
- 高齢者施設
- 市街地再整備
- 都市形成

より高度な技術、判断力を身に付け、
社会に貢献できる人物を育てる

積雪寒冷地特有の建築生産上の技術的諸問題について教育・研究。特に、低温時の建築材料の物性、施工上の諸問題及び建築と雪氷にかかわる課題について教育・研究を展開します。

キーワード

- 建築外装材料
- 高強度コンクリート
- 積雪荷重／屋根雪

積雪寒冷地という気象条件下における室内環境の解析・評価や建築設備の改善、省エネルギーなどを旨とした環境工学的研究を展開します。

キーワード

- 温熱環境
- 建築設備
- 省エネルギー



教授陣容と主要担当科目 (2027年度予定)

谷口 尚弘 教授・博士 (工学)

住環境計画特論

設計・工事監理実務特論

岩澤 浩一 教授・博士 (工学)

建築歴史意匠特論

千葉 隆弘 教授・博士 (工学)

建築荷重外力特論

吉津 利洋 教授・博士 (工学)

建築構造設計特論

伊東 敏幸 教授・博士 (工学)

建築生産工学特論

建築材料学特論

阿部 佑平 准教授・博士 (工学)

建築設備設計特論

沼野井 諭 准教授・学士 (工学)

建築設計特論

平川 秀樹 准教授・博士 (工学)

建築環境工学特論

福田 菜々 准教授・博士 (工学)

地域施設計画特論

前田憲太郎 准教授・博士 (工学)

建築構造計画特論

邵 師 助教・博士 (工学)

都市空間計画特論

建築学特論ゼミナール

(○は研究指導教員)

○谷口 尚弘・○岩澤 浩一・

○千葉 隆弘・○吉津 利洋・

伊東 敏幸・阿部 佑平・

沼野井 諭・平川 秀樹・

福田 菜々・前田憲太郎・

邵 師

CURRICULUM

カリキュラム

1年次	2年次
住環境計画特論 <input type="checkbox"/>	
地域施設計画特論 <input type="checkbox"/>	
都市空間計画特論 <input type="checkbox"/>	
建築歴史意匠特論 <input type="checkbox"/>	
建築設計特論 <input type="checkbox"/>	
建築設備設計特論 <input type="checkbox"/>	
建築環境工学特論 <input type="checkbox"/>	
建築構造計画特論 <input type="checkbox"/>	
建築構造設計特論 <input type="checkbox"/>	
建築荷重外力特論 <input type="checkbox"/>	
建築生産工学特論 <input type="checkbox"/>	
建築材料学特論 <input type="checkbox"/>	
設計・工事監理実務特論 <input type="checkbox"/>	
建築計画特別演習 <input type="checkbox"/>	
建築設計特別演習 <input type="checkbox"/>	
建築設備設計特別演習 <input type="checkbox"/>	
建築構造設計特別演習 <input type="checkbox"/>	
建築実務実習Ⅰ <input type="checkbox"/>	
	建築実務実習Ⅱ <input type="checkbox"/>
	建築実務実習Ⅲ <input type="checkbox"/>
建築学特論ゼミナール <input type="checkbox"/>	必修

※担当教員及びカリキュラム等は変更となる場合があります。

新時代をリードする創造性豊かな技術者の育成

都市環境学は、青函トンネル、本四連絡橋、新幹線や高速道路、海上国際空港の建設といった壮大なプロジェクトの計画とその実現を担当する一方で、都市システムのデザイン、道路、橋、港湾、堤防、ダム、上下水道などの日常生活に密着した諸施設の建設、また環境保全や災害の防止など人々の生活や産業基盤にかかわる技術開発など極めて広範な分野を対象としています。更に、地球温暖化や少子高齢化など、自然・社会環境が大きく変化する時代の要望に柔軟に対応していくことが求められています。

本専攻では、このような時代の中で、寒冷地の地域特性も考慮した自然との調和を図る理想的な社会基盤の整備にかかわる都市環境学の広範な分野の総合的な教育・研究を展開しています。都市環境学専攻の分野を大別し、各々の教育研究の特徴を示すと以下ようになります。

1) **構造・材料系**：コンクリート及び鋼構造物の安全性、信頼性、耐久性、及び耐震性能、さらに新素材や設計手法の開発など、快適で高性能の構造空間をつくるための工学を主要課題とし、積雪寒冷地という地域特性をも考慮した教育研究を行っています。

2) **水環境系**：河川の流出過程、河道内の流れの水理、河川の計画や河川構造物の設計など、河川工学に関する事象、海の波、流れ、漂砂、波エネルギー、港の計画と構造物の設計、海氷対策などの海岸工学に関する事項、ウォーターフロント開発、都市開発などにおける水質保全、水需給などの水環境工学を対象に、制御、利用、保全を課題とし、教育研究を行っています。

3) **都市・交通系**：都市システムのデザイン及び都市計画、地域計画、道路における総合技術監理、アスファルト舗装、セメントコンクリート舗装、道路環境、騒音及び振動障害の防止策などの道路工学、新素材の開発及び利用、総合交通体系、交通システム、道路環境、交通制御などの交通工学、道路アセットマネジメントなどを主要課題とし、積雪寒冷地の地域的問題を考慮し、教育研究を行っています。

4) **地盤・防災系**：地盤災害の発生メカニズムとその対策及び自然環境の保全を主要課題として、土の力学の研究とその社会基盤施設の設計への利用、地盤沈下対策、地盤の凍結・凍上、防災・減災の技術、開発行為と環境・エネルギー問題に関する教育研究を行っています。

修士論文の研究テーマの例

凍上対策の合理的設計法／舗装マネジメントシステム／都市空間のユニバーサルデザイン・バリアフリー計画／気候変動が土構造物に与える影響と対策／北海道における観光動態分析／景観の定量的評価手法／地域航空サービスの評価／北海道の国際物流戦略／木粉を用いた環境活性コンクリートの開発／地域の活性化に向けた戦略的都市計画・地域計画の検討／港湾・海岸構造物の最適設計法／気候変動による港湾・海岸構造物への影響と対策／流域マネジメントにおけるPIと環境教育／GISとリモートセンシングによる流域環境情報の抽出手法の開発／気候変動に伴う永久凍土地帯の地形変化の予測と評価／積雪凍結路面に発生する不陸の生成メカニズム解明／積雪寒冷地におけるアスファルト混合物の耐久性評価／積雪寒冷地における舗装端部損傷の発生メカニズム解明／固結工法における改良強度に影響を及ぼす諸要因の検討

都市環境学が対象とする分野は、上述したように非常に広いことから、本専攻ではそれに対応できるように、講義・演習を通じて広範囲にわたる専門領域について学習するとともに、ゼミナールと修士論文の作成を通じて、特定分野を深く学ぶこともできます。さらに、問題提起から、調査・設計・施工・計画・報告書作成・成果発表まで、上級技術者に不可欠な素養を備えることができるようなカリキュラムが準備されています。



教授陣容と主要担当科目 (2027年度予定)

川端伸一郎 教授・博士 (工学)

都市環境学総論

環境地盤工学特論

石田 眞二 教授・博士 (工学)

都市環境学総論

都市計画特論

蟹江 俊仁 教授・博士 (工学)

都市環境学総論

構造工学特論

亀山 修一 教授・博士 (工学)

都市環境学総論

道路工学特論

都市施設デザイン特論

今野 克幸 教授・博士 (工学)

都市環境学総論

コンクリート工学特論

松田 圭大 教授・博士 (工学)

都市環境学総論

地盤防災工学特論

中村 博康 准教授・博士 (工学)

都市環境学総論

社会資本マネジメント特論

山本 泰司 教授・博士 (工学)

都市環境学総論

河川工学特論

海岸工学特論

井田 直人 准教授・博士 (工学)

都市環境学総論

交通計画特論

細川 和彦 准教授・博士 (工学)

都市環境学総論

寒冷地工学特論

都市環境学特論ゼミナール
(○は研究指導教員)

○川端伸一郎・○石田 眞二・
○蟹江 俊仁・○亀山 修一・
○今野 克幸・○松田 圭大・
○中村 博康・山本 泰司・
井田 直人・細川 和彦

CURRICULUM

カリキュラム

1年次	2年次
都市環境学総論	選択
コンクリート工学特論	選択
構造工学特論	選択
河川工学特論	選択
海岸工学特論	選択
道路工学特論	選択
社会資本マネジメント特論	選択
都市施設デザイン特論	選択
都市計画特論	選択
交通計画特論	選択
地盤防災工学特論	選択
環境地盤工学特論	選択
寒冷地工学特論	選択
都市環境学特別演習	必修
都市環境学特論ゼミナール	必修

※担当教員及びカリキュラム等は変更となる場合があります。

専門分野の枠を越えて実践的に活躍できる研究者・高度専門技術者の養成

専攻概要

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われていています。社会はグローバル化が進展し、科学技術はますます複雑化・多様化・融合化を強めています。そこに存在する諸問題の解決には、従来の伝統的な工学各分野の専門の枠を超えて柔軟に対応できる人材が求められています。

また、これまでは研究者の証とみなされていた博士号は、グローバル化が進展する世界のビジネスシーンにおいて高度な専門性に裏付けられた資質能力の証として必須要件になりつつあります。本専攻では、機械工学、情報工学、電気電子工学、建築学、都市環境学など工学の伝統的な分野のそれぞれの領域を発展させながらも、これまでの伝統的な縦割りの工学教育を排し、各分野における学術的権威、第一線の若手研究者が融合、横断して共同研究体制を構築し、俯瞰的視点から課題解決にあたることのできる研究者あるいは高度専門技術者の養成を目的としています。

教育目的

本専攻では、学士ならびに修士課程で修得した機械工学、情報工学、電気電子工学、建築学、都市環境学のいずれかの領域における豊かな学識を基礎として、独自の視点から学術的知見を提供できる鋭い創造性に基づく研究能力と、他者と協力して俯瞰的視点から課題解決にあたることのできる豊かな人間性、マネジメント力、リーダーシップを具え、細分化する専門分野の枠を越えて実践的に活躍できる能力を養います。

教育指針

本専攻では、課程修了後の多様なキャリアパスに応えるための教育課程を編成しています。俯瞰的な立場からの課題解決能力の醸成のための科目として「科学技術特別講義Ⅰ・Ⅱ」を、また、実社会での経験を通じて社会性の涵養を目的とした科目として「R&D インターンシップ」を共通科目（必修）として配置しています。専修科目は、修士課程からの専門分野を継続してその研究の深化を希望する学生に対しては「基幹工学研究Ⅰ・Ⅱ」を、融合・横断型の分野を学び、自らの専門領域の拡張を希望する学生に対しては「先端工学研究Ⅰ・Ⅱ」を配置しています。専修科目は学生の進路変更を可能とするため2セメスターで開講します。なお、いずれの分野を選択しても研究科目の「工学特別研究」では、多様な分野の3名の教員が共同して研究指導にあたります。

教育・学習目標

本専攻では、養成する人材像と教育目的を踏まえたうえで、大学院教育における研究活動の指針として、次のとおり具体的な学修の到達目標を設定しています。

- ① 専攻領域に関する最先端の知識と周辺領域に関する豊かな学識に基づき、自立して研究を行うことができる能力を深める。
- ② 専攻領域における未解で重要な問題に対して、統合化や定量化を含む最先端の手法により、既存の理論や概念の拡張、再定義ができる能力を培う。
- ③ 新たな概念の構築に対して、十分な学識と革新性、自律性、倫理観をもって積極的に参画をしようとする態度を身に付ける。
- ④ 専門分野の枠を超えて他者と協働し、社会の発展に寄与できる能力を磨く。
- ⑤ 工学技術全般に亘る広い知識に基づき、俯瞰的視点から課題解決にあたることのできる能力を広げる。



担当指導教員及び研究テーマ (2027年度予定)

○は研究指導教員

■基幹工学研究領域

機械工学分野

[研究テーマ]

次世代型超高温コーティングの創製に関する研究、マテリアルズ・インフォマティクスと平衡状態図に基づく先端材料設計に関する研究、プラズマアクチュエータを用いた高性能風車に関する研究、屋外難環境を走破可能な移動ロボットに関する研究

○齋藤 繁/堀内 寿晃/浪花 啓右

電気電子工学分野

[研究テーマ]

超小型衛星開発、衛星通信、リモートセンシング、EV制御に関する研究、再生可能エネルギー機器の開発、電力系統解析及び安定性評価に関する研究、磁性体材料の物性に関する研究、電子デバイスの開発およびフィジカルコンピューティングへの応用に関する研究

○木村 尚仁/○内田 尚志/○折川 幸司/村口 正和/矢神 雅規/伊藤 佳卓/山口 哲

都市環境学分野

[研究テーマ]

都市計画に基づく交通行動分析に関する研究、地球温暖化による極寒冷地構造物の安全性評価と対策、舗装の健全度診断および維持修繕に関する研究、地盤の凍上特性およびその制御に関する研究、セメント系材料のカルシウム溶脱が力学特性に及ぼす影響に関する研究、ジオテキスタイルを用いた軟弱地盤対策工法に関する研究

○石田 眞二/○蟹江 俊仁/○亀山 修一/○川端 伸一郎/○今野 克幸/○松田 圭大/中村 博康

情報工学分野

[研究テーマ]

フィジカル空間とサイバー空間の連携による社会課題解決に関する研究、ICTの応用による福祉分野の問題解決に関する研究、視覚情報処理の高度化と産業・社会への展開に関する研究、音声生成モデルの高度化に関する研究、身体動作のICTによる計測・解析とその応用に関する研究

○真田 博文/稲垣 潤/松崎 博季/和田 直史

建築学分野

[研究テーマ]

積雪地域における自然災害に対する建築物の安全性に関する研究、人口減少時代における地域縮退とその対応策に関する研究、現代における建築空間創造に関する研究、建築構造物等における耐力及び品質向上に関する研究、積雪寒冷地における建築施工技術に関する研究

○千葉 隆弘/○吉津 利洋/岩澤 浩一/谷口 尚弘/阿部 佑平/沼野井 諭

■先端工学研究領域

工学における学際・融合分野

[研究テーマ]

微細加工・マルチマテリアル化に関する研究、AIチップによる5GおよびDX社会実装に関する研究、五感情報代替センサとAIによる「おいしさ」の数値化に関する研究、各種IoTを融合したセンシングシステムの開発とAIなどを活用したデータサイエンスに関する研究

○見山 克己/○小島 洋一郎

CURRICULUM

カリキュラム

1年次	2年次	3年次
共通科目		
科学技術特別講義Ⅰ 必修		
科学技術特別講義Ⅱ 必修		
R&D インターンシップ 必修		
専修科目		
	基幹工学研究Ⅰ 選択	
		基幹工学研究Ⅱ 選択
	先端工学研究Ⅰ 選択	
		先端工学研究Ⅱ 選択
研究科目		
		工学特別研究 必修

※担当教員及びカリキュラム等は変更となる場合があります。

医療の担い手として先進的な薬学の研究に取り組むことができる人材の育成

日本の超高齢社会の到来や北海道をはじめとする地方の過疎化といった社会環境の急速な変化や学術研究の著しい進展に伴い、薬学における大学院教育には最新の医学・薬学の知識と技能を持ち地域医療を高度に担う薬剤師、研究に貢献できる高度医療職業人の育成、また臨床現場と連携した具体的な臨床研究の遂行が求められています。

本研究科では、「薬剤師としての知識を基礎に、実務に直結する研究課題を自らが発見・解決する高度な専門職業人として、科学的思考・研究マインド・研究能力を身に付け、地域医療の担い手として、各種専門・認定薬剤師を目指す薬剤師、薬学研究者、治験・臨床開発従事者などの高度な専門的人材、及び薬学部学生、大学院薬学研究科学生への教育・研究を担う大学教員、大学における研究者の養成」を人材養成の目的としています。

人材養成の目的に基づき、課題研究を遂行するために必要な基礎知識を修得するとともに、創造的研究の科学性と倫理性を備えた企画能力、推進能力、研究成果の論理的な表現能力、論文発表能力を高める教育・研究を行いません。

地域医療薬学分野

広大な面積を有し、人口密度の低い北海道においては、医師、薬剤師、看護師など医療従事者の不足による医療過疎が深刻な社会問題となっています。本学が力点を置いている地域社会、特に医療過疎地において高度の医療に対応できる練度の高い薬剤師を養成し、薬局薬剤師による地域住民の主体的な健康の維持・増進の支援、在宅医療、地域の公衆衛生改善を推進するための課題について教育・研究を行います。

臨床薬剤学分野

病院治療を受ける患者に用いる薬物の適正使用に関わる臨床的課題について、薬剤学・薬物動態学・調剤学・製剤学の知識を基盤に、TDM、製剤設計を通して医薬品の適正使用に関する教育・研究を行います。また、機能性食品などの有効活用に関する教育・研究を行います。

薬物治療学分野

薬物の臨床効果を適正に評価するための課題について、薬理学・生化学・生理学・医薬化学を基盤に、細胞・分子レベルでの病態・薬効薬理とともに医薬品の適正使用に関する教育・研究を行います。

個別化医療薬学分野

遺伝子解析技術の進歩により、個々の患者遺伝子情報に基づいて最適な治療計画が可能になりつつあります。ゲノム情報学・遺伝子解析学・医療情報学の知識を基盤に、治療薬の有効性・安全性・投与計画の予測情報を蓄積し、確度の高いテーラーメイド医療の実践に繋がる臨床的課題に関する教育・研究を行います。



教授陣容と主要研究テーマ (2027年度予定)

地域医療薬学分野

(研究テーマ)	(担当教員)
・在宅医療における薬局機能と薬剤師職能の拡充に関する実証研究	櫻井 秀彦
・患者視点での薬局機能と薬剤師職能の評価に関する研究	櫻井 秀彦
・将来に求められる薬剤師の資質・能力に関する研究	武田香陽子
・地域共生社会における対物業務の効率化と対人業務への充実に関する研究	武田香陽子
・Toll 様受容体により認識される細菌細胞壁成分の合成と構造解析	前田 伸司
・抗酸菌のゲノム解析による型別と感染経路解明に関する研究	前田 伸司
・疾患の治療に繋がる細胞応答システムに関する研究	立浪 良介

薬物治療学分野

(研究テーマ)	(担当教員)
・疾患のスクリーニングおよびテーラーメイド医療に役立つ医薬品及びバイオマーカーを用いた評価系の構築*	町田麻依子、戸田 貴大
・高親和性 IgE 受容体シグナルを標的とした新規アレルギー抑制物質同定およびその作用機序解明	柏倉 淳一
・好塩基球発生制御を目指した新規食品成分の探索	柏倉 淳一
・皮膚領域におけるマトリックス蛋白の生成修復機構の解明	若命 浩二
・植物由来エクソソームの機能探索研究	若命 浩二
・機能性分子を目指した有機リン酸化合物の合成研究	山岸 丈洋
・疾患関連タンパク質が形成する分子間ネットワークの解明	齊藤 貴士

*は他分野との共同研究

臨床薬剤学分野

(研究テーマ)	(担当教員)
・ 抗菌薬の副作用軽減策提案のための基礎・臨床薬理学的研究	山田 武宏
・ 病院内・地域内における抗菌薬適正使用推進がもたらすアウトカム検証	山田 武宏
・ がん薬物療法に携わる薬剤師業務の評価	齋藤 佳敬
・ 抗がん薬治療における有害事象と治療効果の関連性に関する検討	齋藤 佳敬
・ 医薬品の適正使用のための医療情報と安全対策の研究	大滝 康一
・ 疾患治療のためのドラッグデリバリーシステムの開発	丁野 純男
・ がん治療時の副作用軽減を目指した機能性食品成分の治療への応用	佐藤 隆司

*は他分野との共同研究

個別化医療薬学分野

(研究テーマ)	(担当教員)
・ 薬物の体内動態と臨床効果の個体差	戸田 貴大
・ 薬物の体内動態と臨床効果の個体差薬物血中濃度と臨床効果データの母集団 pharmacokinetic/pharmacodynamic 解析	戸田 貴大
・ 疾患のスクリーニングおよびテーラーメイド医療に役立つ医薬品及びバイオマーカーを用いた評価系の構築*	戸田 貴大、町田麻依子

*は他分野との共同研究



研究指導教員一覧

分野名	研究指導領域	研究指導教員
地域医療薬学分野	在宅医療薬学	櫻井 秀彦、武田香陽子
	公衆衛生薬学	前田 伸司、立浪 良介
薬物治療学分野	薬物治療学	町田麻依子
	情報機能薬学	柏倉 淳一、若命 浩二
	病態制御医薬品学	齊藤 貴士、山岸 丈洋
臨床薬剤学分野	病院薬剤学	齋藤 佳敬、山田 武宏
	病態制御薬剤学	丁野 純男、佐藤 隆司、大滝 康一
個別化医療薬学分野	遺伝子解析学	—
	臨床薬物動態学	戸田 貴大

CURRICULUM

カリキュラム

1年次	2年次	3年次	4年次
共通科目			
薬学研究と倫理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
先端医療と薬学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
現代社会と薬学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
研究表現技法	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
関連科目			
研究計画法概論	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
研究課題			
課題研究	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
専修科目			
在宅医療薬学特論	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
在宅医療薬学特論演習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
公衆衛生薬学特論	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
公衆衛生薬学特論演習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
薬物治療学特論	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
薬物治療学特論演習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報機能薬学特論	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報機能薬学特論演習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
病態制御医薬品学特論	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
病態制御医薬品学特論演習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
病院薬剤学特論	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
病院薬剤学特論演習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
病態制御薬剤学特論	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
病態制御薬剤学特論演習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
遺伝子解析学特論	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
遺伝子解析学特論演習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
臨床薬物動態学特論	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
臨床薬物動態学特論演習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※担当教員及びカリキュラム等は変更となる場合があります。

看護実践及び看護教育の場で 指導的な役割を果たす看護職者を養成

医療現場においては、医療の高度化や入院患者の高齢化、患者の安全の確保や権利意識の向上、在院日数の短縮等に伴い入院患者に占める重症患者の割合の増加、精神保健上の問題や児童虐待等をはじめとする地域における看護の対象の複雑化などから、看護実践能力の強化が課題となっており、看護師等にはこれまで以上に高い能力が求められています。

本専攻では、学部教育で修得した看護学及び看護実践に関する専門的な知識や能力を一層深化させるとともに、自ら研究課題を設定し研究活動を展開する能力を身に付けることにより、研究能力を備えた看護教育や看護実践を支える中核的な役割を果たす看護職者を養成します。

また、保健医療に関する幅広い知識の理解のもと、看護学に関する理論的知識と実際にそれらを応用する能力及び看護研究に関する基礎的な知識と方法を身に付けて、看護実践に関する諸課題を科学的に探究し、その成果を看護実践の開発・改善に活かすことのできる実践的な役割を果たす看護職者を養成します。

人材養成の目的や到達目標を達成するための体系的な教育課程の編成を基本方針とし、そのうえで、関連する分野の基礎的素養及び看護学分野に関する高度の専門的知識と能力の修得に向けた教育課程を編成するとともに、人材養成の目的や到達目標を達成するために必要となる授業科目を開設することとしています。

研究内容

看護学に関する理論的知識と、実際にそれらを応用する能力及び看護研究に関する基礎的な知識と方法を身に付け、看護実践に関する事象を学術的に調査研究し、その成果を看護教育の実践・充実に活かすことのできる指導的な役割を果たす看護職者を養成します。

研究テーマ

・心身に障害を抱える人々の生活のありようや生活の支援に向けた看護介入のあり方について心身、社会、教育など広い視点で探求する。	福良 薫
・救急・集中治療領域における看護実践において、シミュレーションやXRを活用した学習効果を明らかにする。また、水準の高い看護実践の可視化に向けて高度実践看護を探求する。	石川 幸司
・加齢と疾病が併存する高齢者に対して、健康とその人にとってより良い生活を支えるための看護実践とその根拠を探求する。	山本 道代
・公衆衛生看護、地域看護、家族看護等におけるさまざまな課題を踏まえて、対象理解、対象支援及び看護介入、子どもの虐待予防などのテーマについて探求する。	松原三智子
・精神障がい者とその家族が地域で生活していくための支援活動に関する課題を明らかにし、彼らのストレングスやリカバリーに着目した看護ケアについて探求する。	笹木 弘美
・意識障害や廃用症候群の状態にある患者の生活を再構築するための看護技術の開発に向けて、覚醒と睡眠や栄養、姿勢などの生活行動に必要な要素について生理学的な検証に基づき探求する。	宮田久美子
・高齢者における様々な健康関連の課題を明らかにし、その解決に向けた介入を検討する。また、年齢、性別、国籍など様々な人々を包摂し、健康が維持増進されるコミュニティのあり方を探る。	大内 潤子



教授陣容と主要担当科目 (2027年度予定)

福良 薫 教授・博士 (看護学)

- 保健医療学特論
- 看護学特論
- 看護教育学基礎特論
- 看護教育心理学特論
- 生活科学特論
- 看護学演習

石川 幸司 教授・博士 (医学)

- 感染看護学特論
- 健康科学特論
- 看護学演習
- 看護学研究方法論

大内 潤子 教授・博士 (学術)

- リハビリテーション看護学特論
- 生活科学特論
- 看護学演習
- 看護学研究方法論

笹木 弘美 教授・博士 (看護学)

- 看護学特論
- 看護教育心理学特論
- 保健科学特論
- 看護学演習

松原三智子 教授・博士 (保健学)

- 健康管理学特論
- 保健科学特論
- 看護学演習

宮田久美子 教授・博士 (看護学)

- 看護学特論
- 看護管理学特論
- 生活科学特論
- 看護学演習
- 看護学研究方法論

山本 道代 教授・博士 (医学)

- 生活科学特論
- 看護学演習
- 看護学研究方法論

高村 昌枝 教授・博士 (看護学)

- 看護学特論
- 看護管理学特論
- 健康科学特論
- 看護学演習

有澤 舞 准教授・修士 (看護学)

- 看護学特論
- 健康科学特論
- 看護学演習

青木 美香 准教授・博士 (看護学)

- 看護管理学特論
- 保健科学特論
- 看護学演習

槌谷亞希子 准教授・修士 (看護学)

- 看護教育心理学特論
- 健康科学特論
- 看護学演習

梅林 秀行 講師・修士 (看護学)

- 生活科学特論
- 看護学演習

福島 綾子 講師・修士 (保健学)

- 健康科学特論
- 看護学演習
- 看護学研究方法論

山下千絵子 講師・修士 (看護学)

- 保健科学特論
- 看護学演習
- 看護学研究方法論

看護学特別研究

(○は研究指導教員)

- 福良 薫・○松原三智子・
- 笹木 弘美・○宮田久美子・
- 大内 潤子・○山本 道代・
- 石川 幸司・高村 昌枝・
- 有澤 舞・青木 美香・
- 槌谷亞希子・梅林 秀行・
- 山下千絵子・福島 綾子

CURRICULUM

カリキュラム

1年次	2年次
共通科目	
保健医療学特論	必修
健康管理学特論	必修
医療倫理学特論	必修
医療安全学特論	選択
専修科目	
看護学特論	必修
看護教育学基礎特論	必修
リハビリテーション看護学特論	選択
感染看護学特論	選択
看護教育心理学特論	選択
看護管理学特論	選択
健康科学特論	選択
生活科学特論	選択
保健科学特論	選択
看護学演習	必修
研究科目	
看護学研究方法論	必修
看護学特別研究	必修

※担当教員及びカリキュラム等は変更となる場合があります。

医療全体の発展に貢献する新しい技術や新たな価値を生み出す人材を養成

医療現場においては、医療の高度化や入院患者の高齢化、患者の安全の確保や権利意識の向上、超高齢化社会に伴う加齢による身体機能障害や脳卒中による麻痺患者の増加、高齢者を対象とした予防事業や介護予防、在宅医療の推進等をはじめとする地域におけるリハビリテーションの対象の複雑化などから、リハビリテーション機能の質的・量的な充実が求められており、リハビリテーション従事者においても、これまで以上に深い知識と高い能力が求められています。

本専攻では、学部教育で修得した理学療法学及び義肢装具学に関する専門的な知識や能力を一層深化させるとともに、自ら研究課題を設定し研究活動を展開する能力を身に付けることにより、研究能力を備えた実践現場を支える中核的な役割を果たす人材を養成します。また、保健医療に関する幅広い知識の理解のもと、理学療法学では、問題や課題を科学的に探求し、その成果を理学療法の評価や治療方法の開発・改善に活かすことのできる人材を養成します。義肢装具学では問題や課題を科学的に探究し、その成果を義肢装具の開発・改善に活かすことのできる人材を養成します。

人材養成の目的や到達目標を達成するための体系的な教育課程の編成を基本方針とし、そのうえで、関連する分野の基礎的素養並びに理学療法学分野及び義肢装具学分野に関する高度の専門的知識と能力の修得に向けた教育課程を編成するとともに、人材養成の目的や到達目標を達成するために必要となる授業科目を開設することとしています。

領域間の壁を越えた融合型の専攻を設置することにより、理学療法学を主たる専門分野とする教員と義肢装具学を主たる専門分野とする教員が連携して教育・研究指導にあたります。このことにより、理学療法学分野を目指す者は義肢装具学分野を理解し、義肢装具学分野を目指す者は理学療法学分野を理解することが可能となり、従来の別々の育成カリキュラムにおいては実現できなかった新たな気づきや学びを実現し、理学療法学分野や義肢装具学分野、ひいては医療全体の発展に貢献する新しい技術や新たな価値を生み出すことのできる人材を養成します。

理学療法学分野

理学療法学に関する理論的知識と実際にそれらを活用する能力及び理学療法研究に関する基礎的な知識と方法を身に付けて、理学療法に関する問題や課題を科学的に探究し、その成果を理学療法の評価や治療方法の開発・改善に活かすことのできる人材を養成します。

義肢装具学分野

義肢装具学に関する理論的知識と実際にそれらを活用する能力及び義肢装具研究に関する基礎的な知識と方法を身に付けて、義肢装具に関する問題や課題を科学的に探究し、その成果を義肢装具の開発・改善に活かすことのできる人材を養成します。

研究テーマ

(理学療法学分野)

・障がい者、高齢者及び介助者を対象とした生活支援に関わる機器、手法の開発と対象者の評価について研究指導を行う。	宮坂 智哉
・XR技術を用いたリハビリテーション・ヘルスプロモーション支援プログラムについて、運動学および人間工学的観点から研究する。	加藤 士雄
・病的歩行の評価及び下肢装具、機能的電気刺激、ロボットデバイスなどの治療機器を用いた運動療法について研究する。	春名 弘一
・姿勢制御、運動制御及び運動学習における運動と知覚のダイナミクスについて、バイオメカニクスや認知科学の手法を用いて研究する。	佐藤洋一郎
・高齢者の健康増進のための栄養療法及びスポーツ競技者に対するアンチ・ドーピング活動について研究する。	川嶋 恵子
・障害者や高齢者の日常生活を支援する機器開発、また呼吸理学療法の評価方法や手技について研究する。	鴨志田麻実子
・バイオメカニクスを主軸とした研究：動作解析（3次元、2次元、AI解析）、筋電図、フィールド計測、スポーツ科学、冬季スポーツ、トレーニング&コンディショニング、テーピング、体力測定、歩行分析など	井野 拓実
・ウィメンズヘルス理学療法学に関する研究：女性特有の疾患（尿失禁や骨盤臓器脱など）、骨盤底筋群の評価とトレーニング、プレコンセプションケア、産前産後、動物モデルを用いた基礎研究など	阿部 由衣

(義肢装具学分野)

・正常歩行の下肢関節の運動及び切断レベル別の義足歩行の特徴から切断レベルと義足歩行のバイオメカニクスについて科学的根拠を基に研究する。	野坂 利也
・日常生活および大規模災害時の避難所環境の双方において、義肢装具および福祉用具の処方から完成適合までの現状の課題とその解決方法、ならびに義肢装具の製作技術、材料開発について研究する。	早川 康之
・義手や義足に用いられる肘継手、膝継手、ソケットなどのパーツ、さらには福祉用具や自助具の評価や開発について、力学的特性や人間工学的な観点からの考察を通して研究する。	敦賀 健志
・脳卒中などの中枢性疾患や変形性膝関節症などの整形疾患に対する補装具が、歩行や立ち上がりなどの動作におよぼす影響について、神経生理学的観点及び運動学・運動力学的観点などのバイオメカニクスの側面から研究する。	昆 恵介
・義手・義足を用いたスポーツ等の特殊環境において、切断者の残存機能を最大限に発揮するために必要な機能を、バイオメカニクスの観点からの考察を通して開発・研究する。	野村 知広
・福祉機器・補装具および関連サービスを主対象として、人間工学的評価に基づき、利用と効果の関係を解明する。質的解析や生体計測などの手法を用いながら、人と製品・環境の相互作用に関わる設計課題を研究する。	佐藤 健斗



教授陣容と主要担当科目 (2027年度予定)

宮坂 智哉 教授・博士 (理学療法学)

- 保健医療学特論
- リハビリテーション学特論
- 生活活動支援学特論
- 理学療法学特論
- 理学療法学演習
- 理学療法学研究方法論

加藤 士雄 教授・博士 (情報科学)

- リハビリテーション工学特論
- 理学療法評価学特論
- 理学療法学演習

佐藤洋一郎 教授・博士 (教育学)

- 理学療法治療学特論
- 理学療法学演習

春名 弘一 教授・博士 (工学)

- 理学療法治療学特論
- 理学療法学演習

昆 恵介 教授・博士 (保健医療学)

- 義肢装具学特論
- 義肢装具学演習

敦賀 健志 教授・博士 (工学)

- リハビリテーション工学特論
- 義肢装具学演習

早川 康之 教授・博士 (工学)

- リハビリテーション工学特論
- 義肢装具学動作分析特論
- 応用義肢装具学特論
- 義肢装具学演習

井野 拓実 准教授・博士 (保健科学)

- 理学療法評価学特論
- 理学療法学演習

嶋志田麻実子 准教授・博士 (工学)

- 理学療法評価学特論
- 理学療法学演習

川嶋 恵子 教授・博士 (薬学)

- 理学療法学演習

野坂 利也 教授・博士 (工学)

- 保健医療学特論
- 義肢装具学動作分析特論
- 応用義肢装具学特論
- 義肢装具学演習
- 義肢装具学研究方法論

野村 知広 准教授・博士 (理学療法学)

- 義肢装具学演習

阿部 由依 講師・博士 (医学)

- 理学療法評価学特論
- 理学療法学演習

理学療法学特別研究

(○は研究指導教員)

- 宮坂 智哉・○加藤 士雄・
- 佐藤洋一郎・○春名 弘一・
- 嶋志田麻実子・○井野 拓実・
- 川嶋 恵子

義肢装具学特別研究

(○は研究指導教員)

- 敦賀 健志・○昆 恵介・
- 早川 康之・野坂 利也・
- 野村 知広

CURRICULUM

カリキュラム

1年次	2年次
共通科目	
保健医療学特論	必修
健康管理学特論	必修
医療倫理学特論	必修
医療安全学特論	選択
専修科目	
リハビリテーション学特論	必修
リハビリテーション工学特論	必修
リハビリテーション医学特論	選択
生活活動支援学特論	選択
医療情報学特論	選択
理学療法学特論	選択
理学療法評価学特論	選択
理学療法治療学特論	選択
理学療法学演習	選択
義肢装具学動作分析特論	選択
義肢装具学特論	選択
応用義肢装具学特論	選択
義肢装具学演習	選択
研究科目	
理学療法学研究方法論	選択
理学療法学特別研究	選択
義肢装具学研究方法論	選択
義肢装具学特別研究	選択

※担当教員及びカリキュラム等は変更となる場合があります。

医療全体の発展に貢献しうる新しい技術や 新たな価値を生み出す人材を養成

医療現場においては、高度な医療機器の開発に伴う操作技術の高度化・複雑化や、安全・保守点検の重要性、放射線検査や治療など放射線診療技術の高度化、医療分野における業務の細分化や分業化に伴うチーム医療における果たす役割の重要性などから、医療技術従事者における実践能力の強化が課題となっており、医療技術分野においても、これまで以上に深い知識と高い能力が求められています。

本専攻では、学部教育で修得した臨床工学及び放射線技術学に関する専門的な知識や能力を一層深化させるとともに、自ら研究課題を設定し研究活動を展開する能力を身に付けることにより、研究能力を備えた実践現場を支える中核的な役割を果たす人材を養成します。

また、保健医療に関する幅広い知識の理解のもと、臨床工学及び放射線技術学に関する理論的知識と実際にそれらを応用する能力及び臨床工学及び放射線技術学研究に関する基礎的な知識と方法を身に付け、臨床工学及び放射線技術に関する問題や課題を科学的に探究し、その成果を医療機器の操作や保守点検、放射線診断や放射線治療の開発・改善に活かすことのできる人材を養成します。

人材養成の目的や到達目標を達成するための体系的な教育課程の編成を基本方針とし、そのうえで、関連する分野の基礎的素養並びに臨床工学分野及び放射線技術学分野に関する高度の専門的知識と能力の修得に向けた教育課程の編成とするとともに、人材養成の目的や到達目標を達成するために必要となる授業科目を開設することとしています。

領域間の壁を越えた融合型の専攻を設置することにより、臨床工学分野を主たる専門分野とする教員と放射線技術学分野を主たる専門分野とする教員が連携して教育・研究指導にあたります。このことにより、臨床工学分野を目指す者は放射線技術学分野を理解し、放射線技術学分野を目指す者は臨床工学分野を理解することが可能となり、従来の別々の育成カリキュラムにおいては実現できなかった新たな気づきや学びを実現し、臨床工学分野や放射線技術学分野、ひいては医療全体の発展に貢献しうる新しい技術や新たな価値を生み出すことのできる人材を養成します。

臨床工学分野

臨床工学に関する理論的知識と実際にそれらを応用する能力及び臨床工学に関する基礎的な知識と方法を身に付けて、臨床工学に関する問題や課題を科学的に探究し、その成果を医療機器の操作や保守点検の改善に活かすことのできる人材を養成します。

放射線技術学分野

放射線技術学に関する理論的知識と実際にそれらを応用する能力及び放射線技術に関する基礎的な知識と方法を身に付けて、放射線技術に関する問題や課題を科学的に探究し、その成果を放射線診断や放射線治療の開発・改善に活かすことのできる人材を養成します。

研究テーマ (臨床工学分野)

- | | |
|---|-------|
| ・透析液と炎症の関連性を解明するために、ブドウ糖非発酵グラム陰性菌 (NFGNB) によるヒト培養細胞に対する炎症性サイトカイン誘導能を研究する。 | 印藤 智一 |
| ・冷却塔水における自由生活アメーバとレジオネラ共存機構の解明 | 古谷 大輔 |

(放射線技術学分野)

- | | |
|--|-------|
| ・臨床で用いられる医療画像の画像評価と画質改善・診断補助用ソフトウェア改良のための新たな画像処理技術について研究する。 | 菊池 明泰 |
| ・光伝搬の理論的解析に基づく無侵襲生体計測法の検討と画像再構成アルゴリズムの構築による新たな医療画像診断技術について研究する。 | 北間 正崇 |
| ・臨床で用いられる医療画像の画質改善と診断補助用ソフトウェア改良のための画像処理技術について研究する。 | 菊池 明泰 |
| ・生体から得られる MRI 信号の解析や可視化を目的とした画像生成シミュレーションや画像生成過程における画像処理手法について研究する。 | 熊澤 誠志 |
| ・放射線検査の手技および意思決定プロセスの解析、ならびに医用言語処理を中心とした人工知能技術の開発および臨床応用に関する研究を行う。 | 谷川原綾子 |
| ・X線 CT 装置の構造や構成、シミュレーション、画像解析を基に、画像再構成および画像処理に関する新技術の臨床的有用性について研究する。 | 佐藤 和宏 |



教授陣容と主要担当科目 (2027年度予定)

菊池 明泰 教授・博士 (保健学)

- 保健医療学特論
- 医療安全学特論
- 核医学検査技術学特論
- 医用画像情報学特論
- 放射線技術学演習

印藤 智一 教授・博士 (医学)

- 保健医療学特論
- 医用機器学特論
- 生体機能代行技術学特論
- 臨床医学特論
- 臨床工学演習
- 臨床工学研究方法論

古谷 大輔 教授・博士 (医学)

- 医用安全管理学特論
- 臨床医学特論
- 臨床工学演習
- 臨床工学研究方法論

北間 正崇 教授・博士 (工学)

- 医用生体工学特論
- 放射線技術学演習

熊澤 誠志 教授・博士 (工学)

- 医用画像情報学特論
- 放射線技術学研究方法論
- 放射線技術学演習

真田 哲也 教授・博士 (理学)

- 放射線科学特論
- 放射線安全管理学特論
- 放射線技術学演習

八重樫祐司 教授・博士 (医学)

- 放射線治療技術学特論
- 放射線技術学演習

佐藤 和宏 准教授・博士 (保健学)

- 診療画像技術学特論
- 放射線科学特論
- 放射線技術学演習

谷川原綾子 准教授・博士 (保健科学)

- 医療情報学特論
- 医療マネジメント特論
- 医療統計学特論
- 診療画像技術学特論
- 放射線技術学演習

石野 直明 准教授・博士 (工学)

- 医用機器学特論
- 医用安全管理学特論
- 臨床医学特論
- 臨床工学演習

横山 徹 准教授・博士 (工学)

- 医用生体工学特論
- 医用機器学特論
- 医用安全管理学特論
- 臨床工学演習

渡邊翔太郎 准教授・博士 (工学)

- 医用機器学特論
- 医用安全管理学特論
- 臨床工学演習

佐々木恒平 准教授・博士 (工学)

- 医療安全学特論
- 放射線治療技術学特論
- 放射線安全管理学特論
- 放射線技術学演習

中村 実 講師・修士 (工学)

- 医用機器学特論
- 医用安全管理学特論
- 臨床医学特論
- 臨床工学演習

小倉 巧也 講師・博士 (保健学)

- 医療安全学特論
- 放射線安全管理学特論
- 放射線技術学演習

放射線技術学特別研究
(○は研究指導教員)

- 菊池 明泰・○真田 哲也
- 八重樫祐司・○北間 正崇
- 熊澤 誠志・○谷川原綾子
- 佐藤 和宏

臨床工学特別研究
(○は研究指導教員)

- 印藤 智一・○古谷 大輔

CURRICULUM

カリキュラム

1年次		2年次	
共通科目			
保健医療学特論 <input type="checkbox"/> 必修	医療倫理学特論 <input type="checkbox"/> 必修		
健康管理学特論 <input type="checkbox"/> 必修	医療安全学特論 <input type="checkbox"/> 選択		
専修科目			
医療情報学特論 <input type="checkbox"/> 選択	医用生体工学特論 <input type="checkbox"/> 選択		
医療マネジメント特論 <input type="checkbox"/> 選択	医用機器学特論 <input type="checkbox"/> 選択		
医療統計学特論 <input type="checkbox"/> 選択	生体機能代行技術学特論 <input type="checkbox"/> 選択		
放射線科学特論 <input type="checkbox"/> 選択	医用安全管理学特論 <input type="checkbox"/> 選択		
臨床医学特論 <input type="checkbox"/> 選択			
臨床工学演習 <input type="checkbox"/> 選択			
診療画像技術学特論 <input type="checkbox"/> 選択	放射線治療技術学特論 <input type="checkbox"/> 選択		
核医学検査技術学特論 <input type="checkbox"/> 選択	医用画像情報学特論 <input type="checkbox"/> 選択		
放射線安全管理学特論 <input type="checkbox"/> 選択			
放射線技術学演習 <input type="checkbox"/> 選択			
研究科目			
臨床工学研究方法論 <input type="checkbox"/> 選択			
臨床工学特別研究 <input type="checkbox"/> 選択			
放射線技術学研究方法論 <input type="checkbox"/> 選択			
放射線技術学特別研究 <input type="checkbox"/> 選択			

※担当教員及びカリキュラム等は変更となる場合があります。

専門分野における問題解決に向けた理論や実践を開発することのできる人材の育成

専門分野の融合や変化への迅速な対応が求められる現代において、研究者には、幅広い視野や変化に対応できる柔軟性が求められており、そのためには、「幅広い知識を基盤とした高い専門性」が重要となります。特に、医療に関する諸問題は、複雑化・高度化の傾向にあることから、看護分野や医療技術系分野の研究者には、周辺の専門分野や全く異なる専門分野を含む多様なものに関心を寄せ、既存の専門分野の枠にとらわれない考え方やもの見方をしながら自らの研究を推進していく能力が求められています。

一方、医療現場では、医療の質や安全性の向上及び高度化・複雑化に伴う業務の増大に対応するため、多種多様なスタッフが各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」が推進されています。大学教育においても多職種協働を意識した学生指導や教育・研究活動が重要となっており、異なる専門分野との連携や協働への意識を有した大学教員の養成が必要となります。

本専攻では、学術研究を担う者としての自覚や意識と自立して研究活動を行うに足る研究能力を有して、現代社会が直面する保健医療分野の諸課題を多角的に分析し、専門分野における問題解決に向けた理論や実践を開発することのできる研究者を養成します。また、研究者の養成と同様の要素に加えて、大学教育を担う者としての自覚や意識と授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる教育者の養成を目的としています。

教育目的

看護学分野、理学療法学分野、義肢装具学分野、臨床工学分野、放射線技術学分野のいずれかの領域における豊かな学識を基礎として、学術研究を担う能力を有して、現代社会が直面する保健医療分野の諸課題を多角的に分析し、専門分野における問題解決に向けた理論や実践を開発することのできる研究者、及び授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる教育者を養成します。

教育指針

本専攻では、学位授与の方針を踏まえた教育課程編成・実施の方針の下に、履修の順序に配慮しつつ、体系的に教育課程の編成をする観点から、「共通科目」、「専修科目」、「展開科目」、「研究科目」の科目群を設け、各科目群における教育目標に応じた授業科目を配置することにより、幅広く高度な知識や能力を身に付けることが可能となる教育課程の編成としています。

また、教育上の主要な授業科目として位置付ける「専修科目」及び「研究科目」では、その全ての授業科目において、博士号の学位や研究業績に加えて、大学や大学院における豊富な教育経験や指導実績を有する専任の教授又は准教授を配置しています。

教育・学習目標

本専攻では、養成する人材像と教育目的を踏まえたうえで、大学院教育における研究活動の指針として、次のとおり具体的な学修の到達目標を設定しています。

- ① 保健医療の最新の動向や諸課題の理解と研究倫理や研究方法を修得する。
- ② 高度な研究活動を実践するための基礎となる豊かな知的学識を修得する。
- ③ 研究者や教育者としての自覚や意識と研究や教育の実践方法を修得する。
- ④ 自ら研究課題を設定し研究活動が実践できる高度な研究能力を修得する。



教授陣容と主要研究テーマ (2027年度予定)

看護学分野

(研究テーマ)	(担当教員)
・加齢や疾病の影響を受けながらもよりよく生きるための支援とその効果を探求をする。	大内 潤子
・心身に障害を抱える人々の生活の支援に向けた看護介入方法について身体、心理、社会、教育など広い視点で探求する。	福良 薫
・公衆衛生看護、地域看護、家族看護に関わる支援方法として、介入研究、アセスメント及び評価尺度の開発などについて探求する。	松原三智子
・運動障害や意識障害がある人々が、自立した生活を回復するための看護の開発を探求する。	宮田久美子
・加齢と疾病が併存する高齢者に対して、健康とその人にとってより良い生活を支えるための看護実践とその根拠を探求する。	山本 道代

理学療法学分野

(研究テーマ)	(担当教員)
・障がい者、高齢者及び介助者を対象とした生活支援に関わる機器、手法の開発と対象者の評価について研究する。	宮坂 智哉
・XR技術を用いたリハビリテーション・ヘルスプロモーション支援プログラムについて、運動学および人間工学的観点から研究する。	加藤 士雄
・姿勢制御、運動制御及び運動学習における運動と知覚のダイナミクスについて、バイオメカニクスや認知科学の手法を用いて研究する。	佐藤洋一郎
・病的歩行の評価及び下肢装具、機能的電気刺激、ロボットデバイスなどの治療機器を用いた運動療法について研究する。	春名 弘一

義肢装具学分野

(研究テーマ)	(担当教員)
・脳卒中片麻痺患者が使用する底屈制動短下肢装具が歩行動作に及ぼす影響について、神経生理学的側面及び運動力学的側面の両面から研究する。	昆 恵介
・義手や義足に用いられる肘継手、膝継手、ソケットなどのパーツ、さらには福祉用具や自助具の評価や開発について、力学的特性や人間工学的な観点からの考察を通して研究する。	敦賀 健志
・日常生活および大規模災害時の避難所環境の双方において、義肢装具および福祉用具の処方から完成適合までの現状の課題とその解決方法、ならびに義肢装具の製作技術、材料開発について研究する。	早川 康之

臨床工学分野

(研究テーマ)	(担当教員)
・冷却塔水における自由生活アメーバとレジオネラ共存機構の解明	古谷 大輔

放射線技術学分野

(研究テーマ)	(担当教員)
・放射線を用いた画像について評価・考察し、より診断に役立つための画像生成技術や診断能向上を目指した技術について研究する。	菊池 明泰
・生体から得られる MRI 信号の解析や可視化を目的とした画像生成シミュレーションや画像生成過程における画像処理手法について研究する。	熊澤 誠志
・環境における放射性核種の移行や挙動を考察し、放射能汚染や放射線からの被ばく線量及び放射線が人体に与える影響について研究する。	真田 哲也
・放射線治療分野において、主に画像誘導放射線治療に関連する新技術および検証法について研究する。	八重樫祐司

CURRICULUM

カリキュラム

1年次	2年次	3年次
共通科目		
保健医療学基盤研究 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保健医療学研究方法 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保健医療学研究倫理 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
専修科目		
保健医療学特殊研究Ⅰ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保健医療学特殊研究Ⅱ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保健医療学特殊研究Ⅲ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保健医療学特殊研究Ⅳ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保健医療学特殊研究Ⅴ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
展開科目		
研究開発基盤研究 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
研究開発実践研究 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
大学教育基盤研究 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
大学教育実践研究 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
研究科目		
保健医療学特別研究 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※担当教員及びカリキュラム等は変更となる場合があります。

長期履修学生制度（概要）

北海道科学大学大学院では、職業等に従事しながら大学院で学ぶことを希望する社会人の方々の学習機会を一層拡大するため、「長期履修学生制度」を導入しています。

1. 制度の趣旨

この制度は、職業を有する等の事情により年間に履修できる単位数や研究・学習活動に充てられる時間が限られているため、標準修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象に、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することにより学位の取得を可能とする制度です。

2. 申請資格

長期履修学生として申請することができる者は、修士課程、博士後期課程社会人入試を経て入学する者のうち、有職者とします。ただし、薬学研究科博士課程については社会人入試を経て入学する者とします。

3. 長期履修期間

長期履修学生として、修業年限を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを認めることのできる期間（以下、長期履修期間）は、2年以内とします。また、長期履修期間は1年単位とします。

4. 申請手続等

①申請期間：長期履修申請書類は出願期間中に書類と同時に提出してください。

②提出書類：長期履修申請書（様式1）※**本学 HP より書式をダウンロードしてください。**

長期履修が必要であることを証明する書類（勤務先が発行する在職証明書）※任意書式

③可否の通知：個別に審査し、入学試験合格者のみに合格通知とともに、長期履修の可否を通知します。

5. 長期履修期間の変更

長期履修期間の短縮は認めますが、延長は認めないものとします。ただし、薬学研究科博士課程については、長期履修期間の短縮又は延長を1回に限り認めることがあります。

6. 授業料

長期履修学生の授業料は、標準修業年限に納める授業料の総額を認められた履修期間で除いた額とします。ただし、長期履修期間の変更が認められた場合は、授業料を再計算します。

※制度の趣旨・内容をよく検討し、申請してください。長期履修に関する取扱要領も併せて確認してください。

【問い合わせ先】

北海道科学大学入試広報課 TEL 0120-248-059
E-mail nyushi@hus.ac.jp

北海道科学大学大学院長期履修に関する取扱要領

(目 的)

第1条 この要領は、北海道科学大学（以下「本学」という。）大学院学則第4条第5項及び第6項の規定に基づき、長期履修に関する必要な事項を定める。

(申請資格)

第2条 本学大学院において、長期履修を申請することができる者は、修士課程、博士後期課程社会人入試を経て入学する者のうち、有職者とする。

2 薬学研究科博士課程については、社会人入試を経て入学する者とする。

(長期履修期間)

第3条 長期履修学生として、標準修業年限を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを認めることのできる期間（以下「長期履修期間」という。）は、2年以内とする。

2 長期履修期間は、1年単位とする。

(申請手続)

第4条 長期履修を希望する者は、所定の期日までに、次の各号に掲げる書類を提出しなければならない。

- (1) 長期履修申請書
- (2) 有識者にあつては在職が確認できる書類（様式任意）
- (3) その他本学大学院が必要とする書類

(変更手続)

第5条 長期履修期間の延長は、認めないものとする。ただし、薬学研究科博士課程については、長期履修期間の短縮又は延長を1回に限り認めることがある。

2 長期履修期間を変更しようとするときは、認められた修了予定年度の前々年度の所定の期日までに、次の各号に掲げる書類を提出しなければならない。ただし、長期履修期間の短縮において標準修業年限までの短縮は認めないものとする。なお、薬学研究科博士課程については、3年次の所定の期日に、次の各号に掲げる書類を提出しなければならない。

- (1) 長期履修期間変更願
- (2) その他本学大学院が必要とする書類

(許 可)

第6条 長期履修学生の許可及び履修期間の変更は、研究科委員会の議を経て、学長が決定する。

(休 学)

第7条 長期履修学生は、本学大学院学則第17条の規定にかかわらず、長期履修申請書に記載されている理由と同一の理由により、休学することはできない。

(授業料)

第8条 長期履修学生の授業料は、標準修業年限に納める授業料の総額を認められた履修期間で除した額とし、納める金額は別表に定める。

2 第5条の規定により長期履修期間の変更を許可された者のその後の授業料は、標準修業年限に納める授業料の総額から既に納めた金額を差し引いた残額を、変更後の長期履修期間から既に経過した期間を除いた年数で除した額を各年度の所定の期日までに納めなければならない。

(運用規定等)

第9条 この要領に定めるもののほか、長期履修の取扱いに関する必要な事項は、研究科委員会の議を経て学長が定める。

(要領の改廃)

第10条 この要領の改廃は、研究科委員会の議を経て学長が決定する。

附 則

- 1 この要領は、平成24年4月1日から施行する。
- 1 この要領の改正は、平成26年4月1日から施行する。
- 1 この要領の改正は、平成29年4月1日から施行する。
- 1 この要領の改正は、平成30年4月1日から施行する。
- 1 この要領の改正は、2020年4月1日から施行する。



ACCESS

JR手稲駅 → 前田キャンパス

- ・バス / 約9分
- ・タクシー / 約5分
- ・徒歩 / 約25分

各駅 → JR手稲駅(快速)

- ・札幌駅から約10分
- ・小樽駅から約22分
- ・新千歳空港駅から約50分



北海道科学大学

〒006-8585 北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4-1
 入試広報課 ☎0120-248-059
 TEL:011-688-2381 FAX:011-688-2392
 HP:<https://www.hus.ac.jp/entrance/>

+Professional

コミュニケーション力、課題発見解決力、自己実現力、ヒューマニティといった基盤能力を基に、専門性を身につけた人材を育成します。
 すべての設置校に共通する、わたしたちのスローガンです。

学校
北海道科学大学
北海道科学大学高等学校
北海道自動車学校